安胡乃宇良爾。布奈能里須良牟。乎等女良我。安可毛能須素爾。之保美都良武賀。此哥卷一に出たりくはしくそこにみゆ

又前に同しけれはすてつ

今本こゝに七夕哥一首と標せれと月の哥にて此舟路にて月の出たるを見て古き哥をおもひ出てうたへる也此卷是までの例に違へれは極めて後人のおもひ誤てさかしらして書加へたるなれは捨つ

於保夫禰爾。麻可治之自奴伎。宇奈波良乎。許藝弖天和多流。月人乎登枯。今本枯を結に誤る

右當所誦詠古哥　既云如く前の書體によりて始をすてゝこゝに此目をあく又今本こゝに右柿本朝臣云々と有も既云如くなれは捨

備後國水調郡　和名抄に御調郡　長井浦船泊夜作哥三首

安乎爾與之。冠辭　奈良能美也故爾。由久比等毛我母。久佐麻久良。冠辭

多妣由久布禰能。登麻利都礙武仁。旋頭哥と今本こゝに小書せるも後人のわさなれは捨

右一首大判官　此大判官ははしめにしるせし遣新羅使の事なれは續紀に從六位上壬生使主宇太麿とあるこれなり

○海原乎。夜蘇之麻我久里。こは數さはなる嶋〳〵をこきすぎゆくをいふ也　伎奴禮杼母。奈良能美也故波。和須禮可禰都母。

可敝流散爾。伊母爾見勢武爾。和多都美乃。於伎都白玉。比利比豆由賀奈。利呂同言にてひろひてゆかんなり奈はいひきはむる詞也

風速浦　備後なり　舶泊之夜作哥二首

上には音擧といひこゝには長息也と有は末にては一つ心とも成へけれとさためならぬ言也

和我由惠仁。妹奈氣久良之。風ヲ能。宇良能於伎敝爾。奇里多奈妣家利。奈牙伎の奈は禰阿約にて音擧の言に加行の語を働云

於伎都加是。伊多久布伎勢波。和伎毛故我。奈氣伎能奇里爾。なけきは長息也汐くもりをやかて霧といふさて汐霧は風の發に從て立と海邊の人いへり此鹽くもりをきりといふは集中にあり

安可麻之母能乎。哥の意は妹かなけきのつよきとしてよめる也こは海邊すこし風ある比によめるなれは猶風吹て汐霧つよからはあくまでふかんとなり

安藝國長門島舶泊磯邊作哥五首

伊波婆之流。冠辭多伎毛登杼呂爾。鳴といはん序なり鳴蟬乃。許惠乎之伎氣婆。京師之於毛保由。此哥は磯邊にてよめる哥なれは其邊のいそに鳴せみをきゝたるなるへし

右一首大石蓑麿　此人も此度の使人のうちなるへし

夜麻河伯能。伎欲吉可波世爾。安蘇倍杼母。奈良能美夜古波。和須禮可禰都母。

伊蘇乃麻由。石の間より也いはしると云に同多藝都山河。此間に禰乃如を入てこゝろ得へし多延受安良婆。身のつゝがなきを山川にいひよせし也麻多母安比見牟。秋加多麻氣氏。あきかたまけ也秋のかたにむかひて也既にもいふさてあひ見むは此所の景色をいふか古へ人は景色をみてかゝる意によむ多かれど前後の哥意もて見れは古郷の妹忍ぶ成らん

故悲思氣美。奈具左米可禰氏。比具良之能。奈久之麻可氣爾。伊保利須流可母。

和我伊能知乎。乎は助字かろく見るへしこは見てをわたらんなとの乎の如し　奈我刀能之麻能。小松原。松原を見てふりし世には小松原なりけんと見し也　伊久世乎倍弖加。可武佐備和多流。かみさびの上に如是をそへて心得へし

從長門浦舶出之夜仰觀月光作哥三首

月余美乃。比可里乎伎欲美。由布奈藝爾。加古能古惠欲妣。俗によばひなり

宇良末許具可母。うら間も磯間といふに同し浦の誤なり

山乃波爾。月可多夫氣婆。伊射里須流。安麻能等毛之備。於伎爾奈

都佐布。月の光のうすくなるより沖の舟のいさり火のなみにゆられて見えきたるをよめりなつさふはなつみさはる也さはるはそはるに同し佐曾同言なれはなり

和禮乃未夜。欲布禰波許具登。於毛敝禮婆。於伎敝能可多爾。可治

能於等須奈里。

古挽哥一首并短哥　今本古の字を右に作るは誤也左の哥こそ挽哥なれさて古の字をおきたるは此前後皆新羅使の哥をあけたれは此哥はさきによみたる挽哥をこゝにおもひ出るまに〳〵しるすなれは古きとは書たるなりけり

由布佐禮婆。安之敝爾佐和伎。安氣久禮婆。明來は也　於伎爾奈都佐布。可

母須良母。都麻等多具比弖。和我尾爾波。こをわが尾にはと訓也と云說もわろからねと此哥廿三言悉音を用ゆこゝにのみ訓を用ゆへきにあらす尾と訓て意にたかふ事なし既和我とさへ書しをおもへはよみこせのまゝぞやすからめ　之毛奈布里曾等。之路多倍乃。此しろたへを鴨にしろきはなきなと云はいりほがなりこは鴨の羽に霜おきたるを白たへの如くとたとへたり既下に打はらひと云は霜をはらひ也こをもてもち上の我尾と云も尾斗ならぬを思へ　波禰左之可倍

氏、さしかはし也　宇知波良比。左宿等布毛能乎。句也さは發語ぬるといふものをなり　由久美都能。可

此次の巻に小埼沼鴨をよめるに前玉之小埼乃沼爾鴨曾翼霧己尾爾霜とよめるに合見るへし

敝良奴其等久。布久可是能。美延奴我其登久。安刀毛奈吉。與能比登爾之弖。現身を云 和可禮爾之。伊毛我伎世弖思。奈禮其呂母。著馴衣也 蘇弖加多思吉氐。比登里可母禰牟。

反哥一首

多都我奈伎。安之敝乎左之弖。等妣和多類。安奈多頭多頭志。比等里佐奴禮婆。多都我奈伎に手著なきをふくみさてすゑにたづきなきをうけてたづ〳〵しといひそれを序儒に末の句を獨さぬれはととめたりつゞけがらは古に似て始の五言末まて働かせたりかゝるたくみをいひかなへんとするほとに古の哥のしらへはわすれて終に後世にながれたりされとこは挽哥なれは此よみ人たくなとおもふ心もあらしを此少し前より折ふしことにかゝるたくひなるも見えたれは目うつれるすかたなるへし源氏須磨の卷にたづが鳴雲井にひとりねをぞなくつばさならへしともをわひつゝてふもこをよみうつせしならん

右丹比大夫悽愴亡妻

屬物發思哥一首并短哥

安佐散禮婆。あさされば も夕されば など に同しくあさになれは也 伊毛我手爾麻久。妹が手に設る也計留約久也 可我美奈須。かゞみなすみと かゝるのみ也 美津能波麻備爾。於保夫禰爾。眞可治之自奴伎。しゞぬきはし げく眞かぢと るをいふなり 可良久爾爾。新羅をいふなり 和多理由加武等。多太牟可布。直向なり 美奴面乎左指天。之保麻知弖。美乎妣伎由氣婆。美乎の乎は伊呂の約にて水色也水脉の字をあつるも水色を見れは也引は梶引折などの引にて舟漕行也水脉を引てふ乎をはぶけは妣と濁るは例也 於伎敝爾波。之良奈美多可美。宇良末欲理。間に てほと り也 許藝弖和多禮婆。和伎毛故爾。安波治乃之麻波。由布左禮婆。久

毛爲可久里奴。左欲布氣弖。由久敝乎之良爾。安我己許呂。安可志能宇良爾。こふる心をおもひあきらめるあかしといふなるへし但此哥のつゞけから後の世の長哥のあしきさまをおしへたるつゞけ多し布禰等米弖。宇伎禰乎詞都追。和多都美能。於枳敝乎見禮婆。伊射理須流。安麻能乎等女波。小船乘。都良良爾宇家里。連々にてつら〳〵つらなるを云也安香等吉能。曉はあくる時也之保美知久禮婆。安之辨爾波。多豆奈伎和多流。安左奈藝爾。布奈弖乎世牟等。船人毛。船にのりたる人也卽御使人ら也船の人の乃を畧けば備と濁也こは船出すといふをかく云也鹿子毛許惠欲妣。柔保等里能。冠辭奈豆左比由氣婆。伊敝之麻婆。播磨の地名也伊を省きて敝鳴といひけんを後に繪島と云にて既に假字もたがへり久毛爲爾美延奴。安我毛敝流。許己呂奈具也等。波夜久伎弖。美牟等於毛比弖。於保夫禰乎。許藝和我由氣婆。於伎都奈美。多可久多知伎奴。與曾能能未爾。見都追須疑由伎。多麻能宇良爾。此浦は前とは同名異地にて備後歟布禰乎等杼米弖。波麻備欲里。はまへなり宇良伊蘇乎見都追。奈久古奈須。禰能未之奈可由。たく也可由は久の延言也和多都美能。多麻伎能多麻乎。手纏也わたづみの手にまきもたる白玉ともよめり伊敝都刀爾。伊毛爾也良牟等。比里比等里。前にいふ如く拾ひ取也素弖爾波伊禮弖。可敝之也流。都可比奈家禮婆。毛弖禮杼毛。之留思乎奈美等。麻多於伎都流可毛。此哥古言をましへいにしへめくさまによみたれとわか心あかしのうらなどのつゞけから後にちかくかゝるすかたより延喜の比の長哥のさまにはなりくだりけん

反哥二首

多麻能宇良能。於伎都之良多麻。比利敝禮杼。麻多曾於伎都流。見流比等乎奈美。

安伎左良婆。和我布禰波豆牟。和須禮我比。與世伎豆於家禮。家は伎豆の約

おきてあれのあを暑るなり　於伎都之良奈美。此哥はおのれはおもへと相おもはぬ妹か心をうらめる哥也遠國より歸來てわすれ貝のあらんをおもふはおのかせちにしぬはるゝをわすれんとならん此哥もおけれおきつなとかさねたるたくみ長哥とゝもに後の世ぶりなるものなり

周防國玖珂郡麻里布浦行之時作哥八首

眞可治奴伎。布禰之由加受波。ゆかずしてあらばをはぶきいふ也　見禮杼安可奴。麻里布能宇良爾。也杼里世麻之之乎。今本一本ともに乎を牟に誤る假字をもて字をあらたむ

伊都之可母。見牟等於毛比師。安波之麻乎。周防の地名なるへし四國の事にてはこゝにかなはず　與曾爾也故非無。由久與思乎奈美。浪風あらきにおもひつゝこしあはしまをよそに見つゝあると也

大船爾。可之布里多豆天。判戟は既いふ如舟をつなぐ杭をいふ今もかしをたつるをかしをふると云これなり　波麻藝欲伎。麻里布能宇良爾。也杼里可世麻之。こも浪風あらきに船泊せんかとなり

安波思麻能。安波自等於毛布。伊毛爾安禮也。既もある如くあればやなり　夜須伊毛禰受豆。安我故非和多流。夢にもあはしとおもふ妹にあればや風波あらくて吾はいをやすくねすて戀わたると也

筑紫道能。可太能於保之麻。周防にそのわたりの大名なるにや　思末志久母。暫なり所の名を得てしばし

くといはん序とせり　見禰婆古非思吉。伊毛乎於伎豆伎奴。
伊毛我伊敝治。知可久安里世婆。見禮杼安可奴。麻理布能宇良乎。
見世麻思毛能乎。

○伊敝妣等波。可敝里波也許等。伊波比之麻。周防の地名なるへし　伊波比麻都
良牟。多妣由久和禮乎。古しへよりかく旅人を幾代を經てかいはひて此名を負けん嶋の名の如家人のいはひて吾を待らんと也
久左麻久良。冠辭　多妣由久比等乎。伊波比之麻。伊久與布流末豆。伊
波比伎爾家牟。前の哥と此哥二首もていはふ心をゝへつくしよめり古はかくなたらかにやすらか也後の世ぶりは家人のいはふといへじきの幾代か人をいはふを一首によみなす故こゝろむつかしく哥のすがたたけからず

過大島鳴門而經再宿之後追作哥二首
巨禮也己能。名爾於布奈流門能。宇頭之保爾。多麻毛可流登布。安
麻乎等女杼毛。こはあやうき所にて玉藻かるをいひ傳へたるを聞てかくよめる也
右一首田邊秋庭　同し御使人のうちなるへし
奈美能宇倍爾。宇伎禰世之欲比。安杼毛倍香。豈思にて妹かなにその事を思ふかして也卷七に舟をあどもひといふは築ともなふにて別也次に吾妹子がいかにおもへかぬは玉のひとよもおちずいめにし見ゆるとあるは似たり卷十に安杼毛敝加あじくま山のゆづる葉のふゝまる時に風ふかずかもと云初句はこゝと同し　許己
呂我奈之久。伊米爾美要都流。
熊毛浦　周防國熊毛郡熊毛郷あり即其浦也　舶泊之夜作哥四首

美夜故邊爾。由可牟船毛我。可里許母能。冠辭 美太禮弖於毛布。許登都礙夜良牟。

右一首羽栗 同し度の丁男なとなるへし

安可等伎能。伊敝胡悲之伎爾。宇良末欲理。可治乃於等須流波。安麻乎等女可母。

於伎敝欲理。之保美知久良之。可良能宇良爾。筑前唐泊か長門赤間よりたゞ一里の程なりといふ 安佐里須流多豆。奈伎弖佐和伎奴。

於吉敝欲里。布奈妣等能煩流。與妣與勢弖。伊射都氣也良牟。多婢能也登里乎。一本に多妣能夜杼里乎、伊射都氣夜良牟、とあるはしらべおとれり

佐婆海中忽遭逆風漲浪漂流經宿而後幸得順風到著豐前國下毛郡分間浦於是追怛艱難悽惻作哥八首

佐婆浦は周防三田尻てふ所といへり紀(仲哀)天皇筑紫岡濱熊鮫舟艤奉迎此外にも見ゆ

於保伎美能。美許等可之故美。於保夫禰能。由伎能麻爾末爾。夜杼里須流可母。

右一首雪宅麿 下に見ゆる雪連宅滿也但豐岐雪同言なれは通し書たるなり

和伎毛故波。伴也母許奴可登。麻都良牟乎。於伎爾也須麻牟。住むなり

伊敝都可受之弖。家にちかづかずしてなり

宇良末欲里。許藝許之布禰乎。風波夜美。於伎都美宇良爾。夜杼里須流可毛。美は例のほむる言也

和伎毛故我。伊可爾於毛倍可。おもへばかの婆をはぶけり奴婆多末能。冠辭比登欲毛於知受。伊米爾之美由流。既いふ如ゆめといはでいめと云此比まて古言を誤らぬ也

○宇奈波良能。於伎敝爾等毛之。乏はたらまほしを約て云也伊射流火波。安可之豆登母世。あかくしてたり夜麻登思麻見無。大和の國の見ゆるにはあらすおさなくよめる也

可母自毛能。冠辭宇伎禰乎須禮婆。美奈能和多。冠辭可具呂伎可美爾。都由曾於伎爾家類。

比左可多能。冠辭安麻豆流月波。見都禮杼母。雖見なり安我母布伊毛爾。安波奴許呂可毛。

奴波多麻能。欲和多流月者。波夜毛伊豆奴香文。宇奈波良能。夜蘇之麻能宇倍由。伊毛我安多里見牟。今本こゝに旋頭哥と小書せしはことさらに後人の注也

至筑紫舘遙望本郷悽愴作哥四首

○之賀能安麻能。筑前國糟屋郡式糟屋郡志加海神社と見ゆ然浦の地名也既にも出一日毛於知受。也久之保能。可良伎孤悲乎母。からきは五味にたとへてあまきくるしきなといふ如其さまをいふはた鹽は唐字の意もていはゞ鹹なれどもこゝにはそをもしほからしと云より辛しとしてかくつゞけり此言此集古今集にもあまたあり安禮波須流香母。此哥ともは御使人等の旅の長路に古郷のならの妹子らをおもふあまりに地のものもて心をのばへたるなり

思可能宇良爾。伊射里須流安麻。伊敝妣等能。漁する海人の家人等なり麻知古布良牟爾。安可思都流宇乎。明の意にて夜あかし魚を釣をいふ哥の意は地につけて海人の家人の待戀るをいひて古郷人の戀るこゝろをよめるなり

可之布江爾。地名にて同國の中の入江なとにて浪しつかなる所歟多豆奈吉和多流。之可能宇良爾。於枳都之良奈美。多知之久良思毛。しくは及の意にてしき浪也此哥は赤人の潟をなみあしへをさしてとよみしは汐のみちくる也それとは異にて然の大浦に沖つ高浪の打しきればかしふ入江のなみしづかなるあたりに鳴わたるとよめる也一本に美知之伎奴良思とあり

伊麻欲里波。安伎豆吉奴良之之。安思比奇能。冠辭夜麻末都可氣爾。日具良之奈伎奴。こは磯山の松かげに鳴をよめると見ゆ此四首はつくしのたちにてよめると有に皆海邊のことなるは其館の海邊ならん

七夕仰觀天漢各陳所思作哥三首

安伎波疑爾。爾保敝流和我母。奴禮奴等母。伎美我美布禰能。都奈之之等理弖婆。織女になりてよめる也吾裳はぬるゝとも君かみふねのつなしとりてあらは也弖安良の約多なるを弖に通せる也

右一首大使

等之爾安里弖。年毎にあり待てたる一夜なり比等欲伊母爾安布。比故保思母。和禮爾麻佐里弖。於毛布良米也母。哥の意は一年に一たびあふと云星よりもわか古郷の妹戀心はいやまさらめと也

由布豆久欲。可氣多知與里安比。安麻能我波。既いふ如く此比になりては古事記のおもむきの古言は誤れる也古はあまつがはと訓許具布奈妣等乎。見流我等母之佐。哥の意は星の逢夜のともしといひて吾古郷の妹子等に逢ぬ久しきをそへてよめる也二の句は夕附夜の影より星の立より逢也此二首も副使判官なとのうたなるへし

海邊望月作哥九首

安伎可是波。比爾家爾布伎奴。和伎毛故波。伊都登加和禮乎。伊波比麻都良牟。こは秋にはかへらんてふわかれの時の哥あると末に妹がまつらん月は經につゝとあるをもて見れは其時もやゝすぐるとよめるなりけり

大使之第二男これは御使人の中にて行か又親にしたかひたゝに行しなどなるへし

可牟佐夫流。此神さひは其地ふるきをいふのちにかうゝしきと云も是なり安良都能佐伎爾。筑前國宗像郡大荒津に荒津あり是か與須流奈美。麻奈久也伊毛爾。故非和多里奈牟。いつまでかくはこひわたらんすらんと也

右一首土師稻足

可是能牟多。與世久流奈美爾。伊射里須流。安麻乎等女良我。毛能須素奴禮奴。意明也一本安麻乃乎等賣我毛能須蘇奴禮奴

安麻能波良。海原也海は廣けれは原といひ遠長く見らるれはふりさけ見ると云布里佐氣見禮婆。欲曾布氣爾家流。與之惠也之。比等里奴流欲波。安氣婆安氣奴等母。

こゝに右一首旋頭哥也とあるはあまりにつたなく集の時の注ならす後人のわさなれはすつ

和多都美能。於伎都奈波能里。今長海苔といひて長き海苔ありそれをいふか又俗に海索麵などいふものかさてこゝまては序也繩はたくりよする物故くるといひさて吾かへりくるを妹かまつらん月日は經ぬるとよめるなり久流等伎登。伊毛我麻都良牟。月者倍爾都追。

之可能宇良爾。伊射里須流安麻。安氣久禮婆。夜あけれは也宇良末許具良

之。浦のほとりを漕來るらしなり 可治能於等伎許由。

伊母乎於毛比。伊能禰良延奴爾。今本禰を禮に誤るねらえぬはねられぬ也音通へはなり 安可等吉能。安左宜理其問理。可里我禰曾奈久。此哥はあけかた霧のうちをかりむれの鳴て行か旅の心にさびしくおもふよりよめり此かりかねの言にてかりかねの禰はむれの約女を禰に通はせしといふ事しらるへし

由布佐禮婆。後世佐を濁りこ婆を清とおもへるは誤なる事既いへるをこゝに清濁をわけて書しを見てしれ 安伎可是左牟思。和伎母故我。等伎安良比其呂母。由伎豆波也伎牟。意あきらか也

和我多妣波。比左思久安良思。あらしはあるらしなり 許能安我家流。伎豆安の三つを約は計なれはかくいふなり

伊毛我許呂母能。阿可都久見禮婆。

到筑前國志麻郡之韓亭。舶泊經三日。於時夜月之光皎皎流照奄對此華。旅情悽噎各陳心緒聊以裁哥六首

於保伎美能。等保能美可度登。吾朝庭といふ時はひろく吾日本の諸の國をみかどゝいふへし伊勢物語に吾みかと六十余州といへるに同しこゝは筑紫の國にてよめるなれはやかてそを遠のみかどゝいふすへて皇國にまつろへる國をは遠のみかとゝいふ事下の長哥に新羅を遠のみかとゝいふ事あるをもてしれ 於毛敝禮杼。氣奈我久之安禮婆。旅にある日久也氣奈我久の氣は伎武加倍を約て氣といふ也年月日は來迎るなれはいふ本居宣長か氣は伎倍の約にに來經也と云も同し意也月日の久を云 古非爾家流可母。古郷を也

右一首大使

○多妣爾安禮杼。欲流波火等毛之。乎流和禮乎。句也 也未爾也伊毛

我。古非都追安流良牟。此哥われはたひなれと火ともしありといひてさてあやなく妹かこふるをやみといふ也

右一首大判官

可良等麻里。和名抄に筑前國志麻郡韓良とあり則是なり　能許乃宇良奈美。和名抄に同國早良郡能解然はのげにて和名抄にあふされと下にも能許とありと說もあれど計許同言なれは方言諺言或は古今の唱違も有へけれは此比迄は和名に能解とあるが能許といひしもしるへからず　多々奴日者。安禮杼母伊敝爾。古非奴日者奈之。

奴婆多麻乃。冠辭　欲和多流月爾。安良麻世婆。伊敝奈流伊毛爾。安比弖許麻之乎。

比左可多能。冠辭　月者弖利多里。伊刀麻奈久。句也月はてりいさり火はあかくともし合たりと云　安麻能

伊射里波。等毛之安敝里見由。

可是布氣婆。於吉都思良奈美。可之故美等。故美は伎の延言　能許能等麻里爾。

安麻多欲曾奴流。舟にて風待するほとの哥なり

引津亭船泊之夜。今本夜字脫哥により加　作哥七首

久左麻久良。冠辭　多婢乎久流之美。故非乎禮婆。可也能山邊爾。草乎思香奈久毛。新古今雜下に菅贈太政大臣刈萱の關守にのみ見えつるは人もゆるさぬ道へなりけりとあるは筑紫路にてよみませるなれは後なからこゝをふるくはかやの山へといひつるか

於吉都奈美。多可久多都日爾。安敝利伎等。美夜古能比等波。伎吉弖家牟可母。浪たかくたつけふしもふなのりしあへりと古郷人はきゝてありけんかと旅の物うさをよめる也伎々弖安里家武の弖安約多なるを弖に通し里をはぶきし也家を濁は言便也

右二首大判官

○安麻等夫也。冠辭 可里乎都可比爾。衣豆之可母。奈良能美夜古爾。許登都礙夜良武。いと遠きさかひに來て都へ便りのなきにわびて空行鴈を使になすよしも哉とまておもへるが切也さて此使古詠をも唱へたれとそは共よししるせり此哥ともは初二首は大判官のよめるにて此末の五首は從へる人〳〵のなる事前後の書體にてしるし然るに拾遺集に此哥を人万呂の唐にてよめりと有はいとひか事也人万呂筑紫へ下りし事は見ゆれと新羅へしも行けん事なし凡拾遺集に此集の哥をとれるは誤多し人万呂は奈良の朝まてありし人ならず

○秋野乎。爾保波須波疑波。佐家禮杼母。見流之流思奈之。多婢爾師安禮婆。秋野を萩の花のてりにほはせたれと妹としも見ねは見るしるしなしと也

伊毛乎於毛比。伊能禰良延奴爾。安伎乃野爾。草乎思香奈伎都。追麻於毛比可禰弖。おもひかねはおもひを別ねるにて鹿の妻をおもふおもひをわかねたつね思ふ故いとゝいのねられすと也

於保夫禰爾。眞可治之自奴伎。等吉麻都等。和禮波於毛倍杼。月曾倍爾家流。大舟の眞梶はやめてかへりつかなん時を待とすれと遠きさかひにしあれはおもはす月を歴ぬると云也

欲乎奈我美。夜をなかびにて夜の長ぶりていねられすとなり 伊能年良延奴爾。安之比奇能。冠辭 山妣故等奈米。佐乎思賀奈君母。毛はそへたるのみ

肥前國松浦郡狛島亭舶泊之夜遙望海浪 各慟旅心作哥七首

可敝里伎弖。はやも故郷に歸來見なんと思ひし也 見牟等於毛比之。和我夜等能。安伎波疑須々伎。知里爾家武可聞。

右一首秦田麿

安米都知能。可未乎許比都々。安禮麻多武。波夜伎萬世伎美。麻多婆久流思母。

右一首娘子（ウトメノ）遊女（ウカレメ）か又故郷の妹の別るゝ時の哥をこゝにてとなへしなるか

伎美乎於毛比。安我古非萬久波。安良多麻乃。冠辭 多都追奇其等爾。年月たつことに也 與久流日毛安良自。無不思日をいふ日毎におもはぬ月日なけれはよくる日なしと也こも右と同しく遊女（ウカレメ）歟又古哥歟

秋夜乎。奈我美爾可安良武。奈曾許己波。許己波こゝはくは也許々多も同言既出 伊能禰良要奴毛。毛は助字 比等里奴禮婆可。

多良思比賣。御舶波弖家牟。松浦乃宇美。地につける序哥なり 伊母我麻都敝伎。月者倍爾都々。歴去つゝなり

○多婢奈禮婆。於毛比多要弖毛。安里都禮杼。伊敝爾安流伊毛之。於母比我奈思母。われは旅にあれは思ひたえてもあれとも家に在妹かおもふらん心かなしきといふ也

安思必寄能。冠辭 山等妣古由留。可里我禰婆。是も亦かりかねは聲の事ならでかりむれなる證とすへし婆は半濁にてわの如く唱るゆゑに濁音の字を用 美也故爾由加婆。伊毛爾安比弖許禰。禰はねかふ意なり

挽哥 今本こゝに到壹岐島云々の二十二字あれと前の例にも遠標の體ともこゝのみたかへれは右の二十二字は哥の左に書て前の例に從て同し集なりにあらためぬ猶よしは下にいふ

○須賣呂伎能。等保能朝廷等。可良國爾。吾朝廷に屬（ツケ）まつりたる故百濟新羅高麗なと迄も遠の朝廷と云り 和多

肥前の島原の人族立し人の居たる人の其居たる大切にして米を衣なを置て鎮守とす
るよし其国の人の云
なり是古への遺風

流和我世波。友の親みて云也　伊敝妣等能。伊波比麻多禰可。いはひてまたねばかなり　多太未可母。故郷にて床の疊をいみてあやまちなきさまにかしこみひめ置事也古事記なとの哥にあり　安夜麻知之家牟。安吉佐良婆。可敝里麻左牟等。多良知禰能。冠辭　波々爾麻乎之弖。等伎毛須疑。都奇母倍奴禮婆。今日可許牟。明日可裳許武登。伊敝比等波。麻知故布良牟爾。等保能久爾。遠の國は新羅の國をさす　伊麻太毛都可受。也麻等乎毛。登保久左可里弖。伊波我禰乃。安良伎之麻禰爾。夜杼里須流君。こは友人の哥也伊波我禰より下辈て石の中にあるもていふ人万呂の妹山のいはねしまけると云も是也

反哥二首

伊波多野爾。壹岐の島に在へし　夜杼里須流伎美。是も辈の地をいふ也　伊敝妣等乃。伊豆良等和禮乎。友のみつからをいふわれをの乎は後に我にと云てにをはなり　等波婆伊可爾伊波武。與能奈可波。都禰可久能未等。和可禮奴流。君爾也毛登奈。もとたはむなしきにてよしなくわれはこひんとなり　安我孤悲由加牟。

右到壹岐島雪連宅滿忽遇鬼病死之時作哥一首并短哥　今本既いふ如く右の二十二字を他標の如くかきたれとはしめの古挽哥とあるは哥の左に讀人と標をしるせり今本哥の左に右三首挽哥とあれと既にはしめの標に挽哥とあけて共目をわかち書しには挽哥の文字を書す既に初の標の書體を改しよしをかきし所に云如く標に一字あけて書しは共すべてをかき下ケ書しは哥の左にある事をあげ書し事奥の中臣宅守茅上娘子の贈答の哥をくはしく見はしらるへしこは傳寫の誤りなるをあらためすあつめふりにそむきまち〳〵に亂し事しるけれは改む扨此讀人はしらへすやがて御使人の中なるへし次の挽哥も此時の哥と見ゆそはよみ人しられたれはそれ〳〵にしるせり此長哥反哥三首はよみ人の傳へなけれはかくかける

なる
へし

○天地等。登毛爾母我毛等。於毛比都都。安里家牟毛能乎。波之家也思。愛しきよ也下の思は助字也卷二別記に委　伊敝乎波奈禮弖。奈美能宇倍由。奈豆佐比伎爾弖。なれいたつき來て也爾はかるく見ゐへし　安良多麻能。冠辭　月日毛伎倍奴。來歷ぬ也　可里我禰母。都藝弖伎奈氣婆。多良知禰能。冠辭　波々母都末良母。安佐都由爾。毛能須蘇比都知。ひづちは豆知約知にてひぢ也其言の本は多志約知にてひたし也扨ひづちといふは古言也　由布疑里爾。己呂毛弖奴禮弖。左伎久之毛。幸くしも也しは助字也　安流良牟其登久。伊低見都追。麻都良牟母能乎。世間能。比登乃奈氣伎波。安比於毛波奴。君爾安禮也母。

安伎波藝能。知良敝流野邊乃。良敝約禮なり　波都乎花。可里保爾布伎弖。かりほの　ほはをの如く唱ふ荒墓に喪屋を作れるさまなるへし旅のかり庵にはあらし御使人は驛亭にやどるなればなり　久毛婆奈禮。冠辭也考には皎たり雲は物にそはす放たな引ば遠しといひかけたるなるへし風の音の遠きに同し　等保伎久爾敝能。壹岐の島をさしいふ　都由之毛能。佐武伎山邊爾。既に秋も過るよし前にも見ゆれはこゝは冬の初つかたにて露霜の寒きと云へるなるへし　夜杼里世流良牟。此終の良牟は上の君にあれやもよりいへり

反哥二首

波之家也思。都麻毛古杼毛母。多可多加爾。遠々の意也　麻都良牟伎美也。之麻我久禮奴流。此嶋隱は上の長哥の終の意とひとし　毛美知葉能。知里奈牟山爾。夜杼里奴流。君乎麻都良牟。比等之可

奈思母。奈良の宅滿か父母妹子なとをいたみてよめる也

右三首葛井連子老作哥 是も御使の官人なるへし今本こゝに作挽哥とあれと前の哥の下挽哥とかゝず又古挽哥ある哥にも此字をくはへす標の書體にならひて挽哥とあけし條下にて哥毎に書ましき例なれは後人の加筆しるしよりてすてつ

和多都美能。可之故伎美知乎。也須家口母。奈久奈夜美伎弖。やすけく もなくな

やみ也 伊麻太爾母。毛奈久由可牟登。喪なくは恙なくなり 由吉能安末能。もなくゆかんとゆきの海人のとはつゝみなくゆかんゆきとかけさてゆきの嶋のあまのわれらと地につけてかくつゝけたるなり 保都手乃宇良敝乎。秀手の占にて都は助字手はそへたる辭秀占は太占と云に同しく稱美の言也 可多夜伎弖。古事記岩戸の條に眞名鹿肩を燒て占ふ事あり此集中にも武藏野のうらへかたやきと云則こゝも是也中世異國より傳へて壹岐對馬伊豆より龜卜を出すといふ事のあれとこゝはそれにあらす 由加武土須流爾。伊米伊米能其等。美知能蘇良治爾。中なる事をそらといふ道の中路にたり 和可禮須流伎美。死するきみ也即雲連宅滿をいふ

反哥二首

牟可之欲里。伊比祁流許等乃。むかしより唐へ行事の歌にからき事をいひしをいひてやかてから國の名に云かけたり 可良久爾能。可良久毛己許爾。和可禮須流可聞。

新羅奇敝可。伊敝爾可加反流。由吉能之麻。此句はゆかんといはんためにおきたるのみ 由加牟多登伎毛。於毛比可禰都母。おもひかねつのつはぬに通ふつなりおもひかねぬなり

右三首六鯖作哥 挽の字を捨る事前にいふこは此うれひにあひて心惚而新羅へかゆかん家にかゆかんとわかちおもひさためかねぬるといふ也本末皆六鯖か心也是も御使人に從へる丁なとなるへし

瞻望奥人案に舊鑑余案尊嚴にヲゼり考に乎と訓めり知美也呂約は字呂左言世は利と同日約則打見遺放也仍てこゝもヲゼりとよむべし

到對馬島淺茅浦舶泊之時不得順風經停五箇日於是瞻望物華各陳慟心作哥三首

毛母布禰乃。波都流對馬能。安佐治山。志具禮能安米爾。毛美多比

爾家里。多比約治にても みちにけり也

安麻射可流。比奈爾毛月波。豆禮々杼母。伊毛曾等保久波。和可禮

伎爾家流。意明 なり

安伎左禮婆。於久都由之毛爾。安倍受之豆。京師乃山波。伊呂豆伎

奴良牟。此哥も既いへる如く秋かへりなんと いひしをおもひふくみてよめる也

竹敷浦對馬なるへし舶泊之時各陳心緒作哥十八首

安之比奇能。冠 山下比可流。毛美知葉能。知里能麻河比波。散亂物見へぬかぬまで

まぎれちれは いふ事なり 計布仁聞安留香母。散はけふ也と云のみなからちりのま がひおもしろかれはかく云ならん

右一首大使

多可之伎能。母美知乎見禮婆。和藝毛故我。麻多牟等伊比之。等伎

曾伎爾家流。此哥も又秋かへらんといひしをおもひ出たる也

右一首副使

多可思吉能。宇良末能毛美知。和禮由伎豆。可敝里久流末低。知里

許須奈由米。ゆめちりこそ也こすは乞の意ねかふ意也

右一首大判官（オホマヲリゴトビト）

多可思吉能。宇敝可多山者。うへかた山は地名也　久禮奈爲能。也之保能伊呂爾。

奈里爾家流香聞。

右一首小判官（スナイマヲリゴトビト）

毛美知婆能。知良布山邊由。良布約留にてちる也　許具布禰能。爾保比爾米侶豆。

地のありさまにめつる也やかてもみちの散ほとりの舟なれはかくいふなり　伊侶豆伎爾家里。御使人たちのにほひにめてゝ吾たち出るといふ意をもそへてよめる歟

多可思吉能。多麻毛奈婢可之。己藝低奈牟。君我美布禰乎。伊都等

可麻多牟。此浦の玉藻靡し漕出なんも此をとめか心をなひかすにたとへ其ふね漕出又こゝに來まさんをいつとかは待んと云をも添てよめりと見ゆ

右二首對馬娘子玉槻（ノサフヒメコタマツキ）　此娘子をさふること訓はもとゆ姓もなく女を具すへきならぬはもとより也前の例によりて遊行女（ウカレメ）とす

多麻之家流。伎欲吉奈藝佐乎。之保美豆婆。豆は多禮約此多は豆阿約也則みちてあれば也よりて婆の濁音を用　安可受和禮由久。可反流左爾見牟。鹽のみちたれはかゝるきよきなぎさをあく迄見すて吾はゆけれは歸るさに見むと玉槻をおもふ心をこめてよめる

大使の哥也

右一首大使

安伎也麻能。毛美知乎可射之。和我乎禮婆。宇良之保美知久。伊麻

太安可奈久爾。こも上の哥の如玉槻をもみちにたとへいまた見あかなくに漕出なんと副使のよめる也

右一首副使

毛能毛布等。比等爾波美要繒。見えまじとなり 之多婢毛能。思多由故布流爾。

都奇曾倍爾家流。故郷をおもひてよめるならん

右一首大使

伊敝豆丹爾。可比乎比里布等。とてのを畧也 於伎敝欲里。與世久流奈美爾。

許呂毛豆奴禮奴。

之保非奈波。麻多母和禮許牟。伊射遊賀武。いさかへりゆかんと也賀を濁音也と論あるはいりほが也賀は清濁兩音也

於伎都志保佐爲。既いふ如井は和妓約鹽さわきなり 多可久多知伎奴。

和我袖波。多毛登等保里豆。手のさきを手なさき手のもとをたもとゝいへは肘の上にてぬれぬるをいふなり 奴禮奴等母。

故非和須禮我比。等良受波由可自。哥意は道の長手に古郷戀る心のくるしかれはわすれ貝ひろひとらすはやまじと也

奴波多麻能。冠辭 伊毛我保須倍久。安良奈久爾。和我許呂母豆乎。奴

禮豆伊可爾勢牟。貝といはねと貝拾ふ事をよめる哥也前の哥に忘貝をうたへは也後の哥をよめると意逆へるを思へ

○毛美知婆波。伊麻波宇都呂布。和伎毛故我。麻多牟等伊比之。等

伎能倍由氣婆。既にいふか如く秋はかへりなんといひければ也

安伎佐禮婆。故非之美伊母乎。此美も夫利約の備より通したる也 伊米爾太爾。比左之久見

牟乎 秋の長夜に向ふをかくいひ長夜さへはやくあけぬと云 安氣爾家流香聞

比等里能未。伎奴流許呂毛能。比毛等加婆。こは既云下紐也多禮可毛由波牟。
伊敝杼保久之弖。長き旅路ひとり著たる衣の紐解ぬるものならは誰か紐結はんと云は妹こひしらにいふのみ
○安麻久毛能。多由多比久禮婆。船にてたゆたひくれはを約て云也新羅への使人にて久しく舟路にあれば也九月能。毛
美知能山毛。宇都呂比爾家里。既いふ如くうつろふは散をいふ
○多婢爾弖毛。母奈久波也許登。あしき事なく歸り來といひてなり和伎毛故我。牟須比思
比毛波。奈禮爾家流香聞。こは長紐也旅の摺衣の右の垂衿にむすび垂る也赤紐ともいふ
回來筑紫海路入京到播磨國家島之時作哥五首
伊敝之麻波。奈爾許曾安里家禮。名はかりなりけりと也宇奈波良乎。安我古非伎

都流。伊毛母安良奈久爾。
久左麻久良。冠辭多婢爾比左之久。安良米也等。伊毛爾伊比之乎。等
之能倍奴良久良久約留
和伎毛故乎。由伎弖波也美武。安波治之麻。久毛爲爾見延奴。たゞはるかなるを
伊敝都久良之母。家は古郷の家をいふづくは近づくなといふか如し家のかたにつくといふなり
奴婆多麻能冠辭欲安可之母布布禰波。許藝由可奈。美都能波麻末都。
麻知故非奴良武。
大伴乃。冠辭美津能等麻里爾。布禰波弖々。多都多能山乎。伊都可故

中臣朝臣宅守後に赦に遇しと見えて天平寶字七年の宅守紀に正六位上朝臣宅守と出たり茅上娘子に授位の事は其の見えざるは

延伊加武。越ゆかんのゆを伊にかよはせりひろひてをひりひてと云におなし

中臣朝臣宅守與狹野大和なり茅上娘子贈答哥

此端詞は是より末六十三首の哥をすへあけたるのみ事は初の標にくはしそこに其誤れる事あるをもよしをも續紀をあけて委くいふてらしあはせてしれ扨姓の下に娘子とあるはいらつめと訓事集中の例なり古への常なり

安之比奇能。冠辭夜麻治古延牟等。須流流君乎。許々呂爾毛知弖。夜須家久母奈之。初の標によりて見れはつみなはれて越路に別れんとするを心に思ひかねてかくよめるなり

○君我由久。道乃奈我氐乎。氐は多計約にて長丈をつゝめいふ也たけは長短をわかず其程をたとへ云辭也簇手蜘手綱手も同しすへて古言のもとのしらへぬを源清良とおのれ論て東万呂眞淵考を交とられぬはすてゝいふめり

安米能火毛我母。天火也女の心にかゝる時天のたすけを得て夫のさすらへ行道を燒亡したべとおさなくいひ出たるにふるき心はこもれり

久里多々禰。くりたかね也我と多と音通は也またたはめたゝむも同也伎保呂煩散牟。

和我世故之。氣太之麻可良婆。けたしはけはときのとをはふきて伎を計に通し陀は知加約にてけぢかしと云意也唐音に蓋の意は物をわかち疑ふにいへと

努波牟。都よりさすらへ行國にまかる也前に袖ふる事既におほしかたみに忍ひ見んといふ也

思漏多倍乃。冠辭蘇低乎布良左禰。袖をふれ此さねの言卷一に委くいふ見都追志こゝにいふはときちかくかりそめなる意に云

己能許呂波。古非都追母安良牟。多麻久之氣。冠辭安氣弖乎知欲利。

あけは明日也をちはのち也又遠にも通ふ須辨奈可流倍思。別て後はぜんすへなからんにこの比はこひつゝあらんと也

右四首娘子臨別作哥

○知里比治能。塵泥也可受爾母安良奴。和禮由惠爾。於毛比和夫良牟。

伊母我可奈思佐。今はさすらへ人となれはつかさ位もなく人かすならぬわれ故に也

安乎爾與之。冠辭 奈良能於保知波。由吉余家杼。行よけれともをはふきいふ也 許能山道波。由伎安之可里家利。此山道はおもふ妹にわかれさすらへ行にさへあれは行くるしき道也けりとなり 宇流波之等。安我毛布伊毛乎。於毛比都追。由氣婆可母等奈。由伎安思可流良武。此哥も前の哥と意同しくうるはしくおもふ妹にわかれ行ゆゑにやむなしくよしなく行くるしと也

○加思故美等。此美は万行に働也 能良受安里思乎。美故之治能。三越路をいふ也 多武氣爾多知弖。手向に立て也道の神をまつる所をいひて後峠の字にていふもこれ也即手祭の意を云こゝにしてかへりみしたれはおもはす妹こひしきより妹か名いひしといふ也かのあつまはやとのたまひしにひとし 伊毛我奈能里都。

右四首中臣朝臣宅守上道作哥

於毛布惠爾。こはおもふゆゑをはふきいふ也ゆゑの惠はゑの假字也此比までは假字正しなり 安布毛能奈良婆。之末思久毛。伊母我目可禮弖。安禮乎良米也母。せちにおもへは相逢ものにしもあらばいたく戀おもへはしはしはしかほとも目かれず吾は相見ずてあらめやといひ遠き國にさすらへ行てあふ事のたえてかたきをなけきけるなり

○安可禰佐須。冠辭 比流波毛能母比。奴婆多麻乃。冠辭 欲流波須我良爾。禰能未之奈加由。加由約久也

○和伎毛故我。可多美能許呂毛。奈可里世婆。奈爾毛能母氐加。伊能知都我麻之。いとおさなくよめるに心ふかし 等保伎山。こは越路に近き山ならん 世伎毛故要伎奴。下の哥もて見れはこゝに關といふも逢坂のせきならん 伊麻左良爾。

安布倍伎與之能。奈伎我佐夫之佐。かく云はうらぶるかたへ心のすさびてせんすへなき也一本左必之佐とあり

於毛波受母。おもはずにあられんやなり母はそへたるのみ　麻許等安里衣牟也。まことにをられんやの心也　左奴流欲

能　伊米爾毛伊母我。うつゝにもいめにも妹か顔の目につきてあるとなり　美延射良奈久爾。

等保久安禮婆。一日一夜毛。於母波受豆。安流良牟母能等。於毛保

之賣須奈。おもひたえぬをことわりよめる也

比等余里波。伊毛曾母安之伎。故非毛奈久。安良末思毛能乎。於毛

波之米都追。おもふあまりにあたし人よりもあしとまて思ふと也

於毛比都追。奴禮婆可毛等奈。奴婆多麻能。冠辭　比等欲毛意知受。伊

米爾之見由流。おもひつゝぬればや一夜もおちず猶戀ひしさを增しむる事のよしなやと也

可久婆可里。古非牟等可禰豆。之良末世婆。伊毛乎婆美受曾。安流

倍久安里家留。

安米都知能。可未奈伎毛能爾。安良婆許曾。安我毛布伊毛爾。安波

受思仁世米。神のなきてふ事あらねはいのりてあはめと思ふをいのる神なくはこそあはすしてしにせめとなり

伊能知乎之。此乎之は助字也今多爾毛阿故與の多爾の如くすてゝ見るへしかゝる助字の事は既にもいふ　麻多久之安良婆。安里伎

奴能。冠辭　安里豆能知爾毛。此毛もそへたるのみ　安波射良米也母。一本安里豆能乃知毛とあり

○安波牟日乎。其日等之良受。等許也未爾。常闇也夜晝もわかす戀くらす也　伊豆禮能日

麻呂。安禮古非乎良牟。

多婢等伊倍婆。許等爾曾夜須伎。旅といはんにはいひやすき也ことは言也　須久奈久毛。此詞を落句へかけて心得へしすへなき事すくなからすおほきといふなり

伊母爾戀都々。須敝奈家奈久爾。なけなくはなからなくにて奈加約加なるを計にかよはしいふさて奈加の加は久波約にてなくはあらぬに也歴句にすくなくもといへるはこふす人の多きをすくなくもあらぬといはんため也

和伎毛故爾。古布流爾安禮波。多麻吉波流。冠辭　美自可伎伊能知毛。

乎之家久母奈思。かくさま〳〵におもひつゞけていたづきおもふは妹にこふるにしあればみしかきいのち死ともをしからぬと也

右十四首中臣朝臣宅守

伊能知安良婆。安布許登母安良牟。和我由惠爾。波太奈於毛比曾。

伊能知多爾敝波。此哥は前の宅守の終の哥に答てはたしてなおほしそよ命だにへばあはなんものをとよめる也此だにはいひ入たるだになり

比等能宇々流。田者宇惠麻佐受。伊麻左良爾。久爾和可禮之乎。安

禮波伊可爾勢武。遠き國にさすらへぬれば國わかれといへり此哥は實に用うゝるほとの人ならねと時につけてよめるなるへし

和我屋度能。麻都能葉見都々。待を松にいひかけてそを見つゝといふにさりける　安禮麻多無。波夜可

反里麻世。古非之奈奴刀爾。戀ひ死ぬ時に也後の世にこれを間にといへり

比等久爾波。須美安之等曾伊布。須牟也氣久。すみやか也みとむとを通し氣は加に同をのへたるなり須美安之より

かさね波也可反里萬世。古非之奈奴刀爾。
いふ也

比等久爾々。伎美乎伊麻勢乎。往まさせて也　伊都麻呂可。安我故非乎良牟。

等伎乃之良奈久。

安米都知乃。曾許比能宇良爾。天地のそこひのうらと云は天地の限と云か如く宇良は裏にてうちと云に同し集中に山のそき野のそき又祝詞に國の退立限といふも退は限りなれは天地の涯といふに同しそこべをそこひと云へとひとは同音べと濁る故にひもいの如く半濁也　安我其等久。伎美爾故布良牟。

比等波左禰安良自。さねは實也まことに我如く戀ひくるしむ人は世の中にあらじといふ也

之呂多倍能。冠辭　安我之多其呂母。宇思奈波受。毛豆禮和我世故。もちてあれを約通て云　多太爾安布麻低爾。

波流乃日能。宇良我奈之伎爾。於久禮爲豆。君爾古非都々。宇都之家米也母。春日のうらゝかにかなしくめてらるゝにかくおくれゐて君をこふる也家は久阿良の約加なるを計に通じて云うつしくあらめやも也

安波年日能。あはん日までの也　可多美爾世與等。多和也女能。於毛比美多禮豆。

奴敝流許呂母曾。

右九首娘子

過所奈之爾。ふみは義訓也公式令過所文とある是也關なと守ある所を通らしむる印は過所文也俗の切手手形也　世伎等婢古由流。保等登藝須。和我子爾毛可毛。此本和を多とするは和の草を多と見し誤也子はみとよまん事もとよりなれは可毛脫る事しるしさま〳〵說ともあれとよしなし仍て可毛を補り　夜麻受可欲波年。

宇流波之等。巻二の別記に此言葉あり　安我毛布伊毛乎。山川乎。こは山と川となりよりて川をすみてよめり　奈可爾敝奈里氏。隔り加陀多約陀なるを通して奈といふ奈は陀の半濁なり　夜須家久毛奈之。

牟可比爲弖。一日毛於知受。見之可杼母。伊等波奴伊毛乎。不厭なり 都奇
和多流麻弖。月を經渡るまで見ぬとなげく也
安我未許曾。世伎夜麻故要氐。許己爾安良米。許己呂波伊毛爾。與
里爾之母能乎。意明也
佐須太氣能。冠辭 大宮人者。此みや人は娘子をさす 伊麻毛可母。比等奈夫理能未。人な
ぶりは直風也人のなほびたるをこのみてあるらんといふも今はおのれさすらへ人の直人となりにたればなほびたるをこのめるならんといふ今の俗のいふなぶりは此轉語也一本に腰句伊麻左倍也とあり 許能
美多流良武。
多知加敝里。奈氣杼毛安禮波。之流思奈美。於毛比和夫禮弖。夫利約備也利と禮は書通ふ備と便も同言也卽わび也 奴流欲之曾於保伎。ぬる夜おほきにてしは助字なり
左奴流欲波。於保久安禮杼毛。母能毛波受。夜須久奴流欲波。佐禰
奈伎母能乎。既いふ如くさねは實にてまことになきなり
○與能奈可能。都年能己等和利。可久左麻爾。かゝるありさまを契約たる言にて如是樣なり 奈里伎
爾家良之。須惠之多禰可良。遠祖貴しのちの胤かく衰て國官となり剩さすらへ人と成をいふ
和伎毛故爾。安布左可山乎。こゝをもて見れははしめに關といふも逢坂なるへし前にいふ 故要弖伎弖。奈伎
都々乎禮杼。安布余思毛奈之。
多婢等伊倍婆。許登爾曾夜須伎。言にはやすく閑ゆれとなり 須敝毛奈久。すべもなくくるしき旅なれともなり

久流思伎多婢毛。許等爾麻左米也母。こらは娘子を指こふる心にまさめや也こも母はそへたるのみ
山川乎。奈可爾敝奈里弖。等保久登母。許己呂乎知可久。於毛保世
和伎母。心に遠さけお もふなと也
麻蘇可我美。冠辭 可氣弖之奴敝等。麻都里太類。卷二 奉御調等あるをもて此まつりたるも奉りたるとしらる
可多美乃母能乎。その物あるへし 比等爾之賣須奈。事にかけてしぬびねと奉せし物なれは人に見せそといふ也
宇流波之等。於毛比之於毛波婆。今本婆波とあるは字の上下したる也よてあらたむ 之多婢毛爾。下紐はさきにもい
ひたる如く衣の衿の下の左右につけたる小紐也 由比都氣毛知弖。夜麻受之努波世。まへの哥のかたみの物を下紐につけてしぬへといふな
らんこも二首にて心を盡したる也

右十三首中臣朝臣宅守

多麻之比波。安之多由布敝爾。多麻布禮杼。かくいひかはして宅守のせちなる心はもれともといふをかくはいへるなり
安我牟禰伊多之。古非能之氣吉爾。たましひのせちなるはかりにてあはぬ物故戀る事の繁きにむねいたしとなり
己能許呂波。君乎於毛布等。とてのてを畧也 須敝毛奈伎。古非能未之都々。
禰能未之曾奈久。
奴婆多麻乃。冠辭 欲流見之君乎。安久流安之多。安波受麻爾之弖。伊
麻曾久夜思吉。此哥は事あらはれたる折の事を後によめる也夜のみあひ見しをあけぬるあしたは不逢夫としたるといふを畧きつゞめてよめるなり
安治麻野爾。越前國也 屋杼禮流君我。可反里許武。等伎能牟可倍乎。かへらん時を

待迎ん程をいつとかまたんといふなり 伊都等可麻多武。

宮人能。夜須伊毛禰受弖。家布家布等。麻都良武毛能乎。美要奴君

可聞。宅守もと殿上人なるへしこゝに云宮人はもとの同僚を指て娘子のいふ也即娘子の戀るこゝろとなる也

○可敝里家流。比等伎多禮里等。伊比之可婆。保等保登之爾吉。殆將死也

あまりてよろこばしきさまをいふ吉は家利の約也 君香登於毛比弖。國の政に行し人の今歸りしと云を宅守の歸しといふかと思ふより既にたへでたましひまとひきとよめるなり

君我牟田。由可麻之毛能乎。句也 於奈自許等。もとの如くしておくれゐると云也 於久禮弖乎

禮杼。與伎許等毛奈之。哥の意は君とゝもに行かばよからんをこゝにもとの如くおくれゐてよき事無と也

和我世故我。可反里吉麻佐武。等伎能多米。伊能知能己佐牟。和須

禮多麻布奈。意明也

右八首娘子

安良多麻能。冠辭 等之能乎奈我久。安波射禮杼。家之伎許己呂乎。けしきは

苅刀奈禮の四言を約れは計なれは然いふ則ことなる心也之伎は戀及ゆかしきのしきと同しく及の意也即異なる心はもたらぬといふ也かく約る例は語意にくはし 安我毛波奈久爾。

家布毛可母。美也故奈里世婆。見麻久保里。爾之能御馬屋乃。刀爾

多弖良麻之。右馬寮の邊に此女の家ありし也されは常に都にありし時は御馬屋の外のあたりにたもとほりて彼女を見たるより斯よめる也刀は外也たてらましの麻之約未なるを牟に通したるにてたてらんなり

右二首中臣朝臣宅守

伎能布家布。伎美爾安波受弖。須流須敝能。せんすべもするすへも同言にてなせる方のなき也久しく君にあはてきのふけふすべき手著なくてねのみ泣といふなり多度伎乎之良爾。禰能未之曾奈久。

之路多倍乃。冠辭阿我許呂毛弖乎。かたみのころもを也登里母知弖。伊波敝和我勢古多太爾安布末低爾。形見の衣手をとり持て祈祝ことわさのあるならん

右二首娘子

和我夜度乃。波奈多知婆奈波。伊多都良爾。知利可須具良牟。見流比等奈思爾。みやこの吾やとの橘をおもひてゝよめるなり

古非之奈婆。古非毛之禰等也。保等登藝須。毛能毛布等伎爾。伎奈吉等余牟流。

多婢爾之弖。毛能毛布等吉爾。保等登藝須。毛等奈那難吉曾。安我古非麻左流。

安麻其毛理。雨の日に籠居也○然し冠辭の如くおける也毛能母布等伎爾。保等登藝須。和我須武佐刀爾。伎奈伎等余母須。

多婢爾之弖。伊毛爾古布禮婆。保登等伎須。和我須武佐刀爾。許欲奈伎和多流。こよはこゆに同しくこゝより也吾は旅のやとりにて行かたかるを時鳥こゝより吾すみし里になきわたると云也

○許己呂奈伎。登里爾曾安利家流。保登等藝須。毛能毛布等伎爾。

奈久倍吉毛能可。心のまゝをおもへる如くによめるなり

保登等藝須。安比太之麻思於家。奈我奈家婆。安我毛布許己呂。伊多母須敝奈之。いたとはいとに同しいとはいたく也いたくせんすへなくといふ也しましのまは婆に同しく暫なり

右七首中臣朝臣宅守　此七首は娘子に贈たるにあらす自よみ置ぬる也今本こゝに寄花鳥陳思作哥とあるは後人書加へし事しるかれは前の例によりてすてつ

万葉集卷十之考終

此卷は今本の九の卷也これを今あらためて十一の卷とするよしは考の十の卷今十五のはしめにくはしくいへり此卷を十一の卷とすれは此下二十の卷まて十卷すへて家持卿の集のまゝにならひ集ふりも書體も同しさまにつらなり且卷一の卷より六の卷までの集ふりにもあへりよしをいはゞ古きみやぶりをはしめとし卷のはては國風ある二十の卷を終の卷とする事古万葉の六の卷にひとしかた〳〵ついてをかくさためなん事うへならすや

○はしことはゝ卷の一より卷の六までのさまに此國ふりに訓へきなれと奈良の末となりてはもはら唐さまに文をかきしかよまんとすめれは此家持集も其意にてかき給へる也されはあきらかに吾國ぶりにかけるはしことばハみやびかによみかの唐さまなる文はからさまによむへくせり唐めきたるは唐さまによみて哥にかゝはらぬ事なれはいたく心をもちゐさる

なり

○契冲などか説のことさらによろしきはそをよしとして其名をあけたり誰もしらるへきをいふには契冲またはあたし人のいへる言も必其名をあけことはらすしかりとて他の説をぬすまひたりとおもふ事なかれ

万葉集卷十一考標

雜謌

泊瀬朝倉宮御宇天皇御製歌一首

岡本宮御宇天皇幸紀伊國時歌二首

大寶元年辛丑冬十月幸紀伊國時歌十三首

後人歌三首

獻忍壁皇子歌一首　今本こゝに詠仙人形とあるはいと後人のわざしるかれはすてつ

獻舍人皇子歌二首

泉河邊間人宿禰作歌二首

鷲坂作歌一首

名木河作歌一首　諸本こゝを二首とすれと一首は落失たるか今一首也一首ならひてあるは名木河の哥にあらさる事は考に云

杏人濱作歌一首　今本此哥ありて端詞なし哥によりて端詞を補ひ此標をも補へり名木河哥にあらぬ事も考に云

高島作歌二首

紀伊國作歌二首

鷺坂作歌一首

泉河作歌一首

名木河作歌三首

宇治河作歌二首

献弓削皇子歌三首

献舍人皇子歌二首

舍人皇子御歌一首

鷺坂作歌一首

泉河邊作歌一首

人麻呂歌下雜字脫歟

献弓削皇子歌一首

柿本朝臣人麿歌二首

登筑波山詠月一首

幸芳野離宮時歌二首

槐本歌一首

山上歌一首

春日歌一首

高市歌一首

春日藏歌一首

元仁歌一首

絹歌一首

島足歌一首

麿歌一首
丹比眞人歌一首
和歌一首
石川卿歌一首
宇合卿歌三首
碁師歌二首
小辨歌一首
伊保麿歌一首
式部大倭芳野作歌一首 今本式部大倭とのみあり芳野云々は哥の右を以補へり
兵部川原歌一首
詠上總末珠名娘子一首幷短歌
詠水江浦島子一首幷短歌

見河內大橋獨去娘子歌一首幷短歌
見武藏少崎沼鴨作歌一首
那賀郡曝井歌一首
手綱濱歌一首
春三月諸卿大夫等下難波時歌二首幷短歌
難波經宿明日還來時歌一首幷短歌
檢稅使大伴卿登筑波山時歌一首幷短歌
詠霍公鳥歌一首幷短歌
登筑波山歌一首幷短歌
登筑波嶺爲嬢歌會日作歌一首幷短歌
詠鳴鹿歌一首幷短歌
沙彌女王歌一首

七夕歌一首幷短歌

相聞

振田向宿禰退筑紫國時歌一首

和氣 今本拔氣と有改よしは考云 大首任筑紫時娶豐前國娘子紐兒作歌三首

大神大夫任長門守時集三輪河邊宴歌二首

大神大夫任筑紫國時阿倍大夫作歌一首

獻弓削皇子歌一首

獻舍人皇子歌二首

石河大夫遷任上京時娘子贈歌二首

藤井連遷任上京時娘子贈歌一首

藤井連和歌一首

鹿島郡苅野橋別大伴卿歌一首幷短歌

與妻歌一首

妻和歌一首

贈入唐使歌一首

神龜五年戊辰秋八月歌一首幷短歌

天平元年己巳冬十二月歌一首幷短歌

天平五年癸酉遣唐使舶發難波入海之時親母贈子歌一首幷短歌

思娘子作歌一首幷短歌

挽歌

宇治若郎子宮所歌一首

紀伊國作歌四首

過足柄坂見死人作歌一首幷短歌

過葦屋處女墓時作歌一首幷短歌

哀弟死去作歌一首幷短歌

詠勝鹿眞間娘子歌一首幷短歌

見菟名負處女 今本菟原處女とあるは誤なる事考にくわしく云哥の言によりて字を改 墓歌一首幷短歌

後に雄略天皇と申

巻八秋雄哥に岡本天皇御製暮去者小倉山爾鳴鹿之云々○椋を按の誤りとして契冲は此外なしも改ぬ按を案なめのなるこゝは座なりの意にとりけるなら小闇の意なれは字書に實熟の意にて黑しとあるもて烏にの意にかりたるにて改むる事にあらさる也

万葉集卷十一之考

雜歌

泊瀬朝倉宮御宇大泊瀬幼武天皇御製歌一首

暮去者。小椋山爾。小椋をゝくらと訓は巻十二の同哥に小倉とかきたるもてよめる也 臥鹿之。今夜者不鳴。今本にはこよひとすれどこゝはこのよといふそ古訓なるへしとやことなき御說によりてあらたむ 寐家良霜。巻十二に此哥を岡本天皇の御製とあるはよし泊瀬朝倉宮の比のしらへにはいさゝか後の世ふりにちかからんにやさて此家持集の始に是を出されて次の十二に又此哥を載られたるは重ねのせられたるに似たれと撰集にもあらす家の集にて聞にまかせ筆にまかせて書れたる物なれは末にもかゝる事あるなり誤りとしてあらたむへき事にもあらす

今本こゝに在或本云岡本天皇御製不審正指因以累載とあれと本より後人の書加しなれは小書とするは正しともせめどみづからかゝる事を家の集に注せらるべきにあらぬをおもへ此末にも左の注には如此後人のわざも

後に舒明天皇と申まつる

交れゝは心し
て見るへし

崗本宮

記舒明に息長足日廣額天皇二年冬十月遷於飛鳥岡是謂岡本宮云々

御宇天皇

息長足日廣額天皇

幸紀伊國時

同天皇三年秋九月云々

幸于攜津國有間溫泉冬十二月天皇至自溫湯云々十年冬十月幸有間溫湯宮とみえたり紀伊國に行幸の事見えす紀の說正か此集の誤なるか

歌二首

爲妹。吾玉拾。奥邊有。玉緣持來。奥津白浪。 此哥男の哥也此行幸從駕の公卿大夫の中の哥にて都にとゝめおきし妻をさして妹とよめるならん哥の意かくるゝ事なし玉はあわび玉を云事既見えたり

○朝霧爾。沼爾之衣。不干而。一哉君之。山道將越。 此哥は女の哥也此行幸に夫の從駕にて紀伊國に至るを都にて思ひやりてよめるなるへし二首ともに此幸の時の哥なれはよせてあけしのみ

右二首作者未詳

大寶元年辛丑冬十月太上天皇幸紀伊國時歌十三首

續紀文武大寶元年九月云々天皇幸紀伊國冬十月車駕至武漏溫泉宮戊申從官并國郡司等進階云々當年租調并正稅利唯武漏郡本利并免曲赦罪人戊午車駕至自紀伊とみえたれは文武天皇の行幸也さらはこゝに太上の二字あるは衍文歟又紀に太上持統の二字を落したる歟持統天皇の幸のありしか且太上天皇とあるに今本に大行天皇崩御の後諡奉らさるほとなかく申也とあり一本によるにこは全衍字なれはすてつ

爲妹。我玉求。於伎邊有。白玉依來。於岐都白浪。 此哥前の哥と全く同しいさゝか辭の違るのみされと同案のあるへきなれは必同哥ともいふへからす聞にまかせ筆にまかせられたりと見えたれはおのつからかゝる事もあるにや端詞まて別なれはいつれを誤とはいひかたしさるを今本に右一首上見既畢但歌辭小換年代相違因以累載とあるも前にいふ自の注ならす後人のわさなれはすてつ

白崎者 同國伊都郡郷名云賀美又云指理次の哥に白神とよめるもこれならん **幸在待。大船爾。眞梶繁貫。又將顧。**

三名部乃浦。 六言紀伊國也今もみなべたなへの地の名有 **鹽莫滿。鹿島在。** 紀伊國也島のしは濁るへし **釣爲海人乎。**

見變來六。

朝開。搒出而我者。湯羅前。紀伊國藤代より今道十三里を隔つ熊野へよれり 釣爲海人乎。見變將來。

從駕の人なれはめつらしみてかくよめるなり

湯羅乃前。鹽乾爾祁良志。白神之。前にいふ如く白崎同所ならん 礒浦箕乎。箕イ浦は借にてべと同し 敢而搒動。あへては喘てふ意也

黑牛方。呂字約留なるを呂に通しいふ故に字を畧く下に久呂牛方と六言も有上にも既出 鹽干乃浦乎。紅。玉裙須蘇延。往者誰妻。供奉の女房をさしいふ

風莫乃。此まゝにて訓は加射奈美か又莫は暴にて加射波也歟前にも同國にかさはやとよみし哥あれは風早ならんを字を誤しなるへし 濱之白浪。徒。於是

依久流 見人無。めつらしと見る浦なれは浪のよするも面白くてかくはよめるならん一本に於斯依來藻と有 今本こゝに右一首山上臣憶良類聚哥林曰長忌寸意吉麻呂應詔作此哥とあれと家持卿のかゝれたるにあらす此哥林てふは僞つくれるもの也されと後の世の僞書とちかひ古につけてたま〳〵はとる事有と眞淵いへりさて憶良家持少しのたかひにて同時なれは此哥林家持卿の比にあるへきならねは此注後人の加へし事明也仍てすてつ

我背兒我。使將來歟跡。出立之。此松原乎。今日香過南。此ならひの哥皆男哥也一二三の句の詞女とばめきたりこれによるにもとの三句は序にて出立之の之は弖の誤是迄は序哥にて四の句の此松原の此は吾の誤乎は衍字吾松原に地名と見る方やすからん

藤白之。紀伊國也今和哥の浦てふ地海の向にあたれりといふ 三坂乎越跡。白栲之。冠辭 我衣手者。所沾香裳。旅の日數そひてなるゝによりてぬれしにや又有馬皇子をおもひまつれる歟紀路に至りて都べの遠さかりたれは故郷こひしらの增りて袖の沾るとみんか

勢能山爾。同國の山なり 黃葉常敷。とこしくはもみちの今に染及てあるをいふ十月なるにかくあるはとりたてゝ云と見えたり 神岳之。紀雄に畧に神岳と

見ゆ又雷岳とも書りまことは三輪也　山黄葉者。今目散濫。今本目を日に誤る一本により改今日としてはけふかと訓にはてにをばの字なくては然よまれす今もちるらんとは今かもちるかといふなり

山跡庭。聞往歟。大我野之。和名抄に名草郡大屋又大宅郷あり式に名草郡大屋都比賣神社あり是か又は大神野の義なる歟　竹葉苅敷。

廬爲有跡者。おもふに此末の句はいほりするとはとこそよまめ　鹿取靡。なめしはならべしにて

木國之。昔弓雄之。弓に名高人ありしならん其古事は不傳　響矢用。和名鳴箭漢書義云鳴鏑如今之鳴箭也

數多を云ならん古へこゝにありしならん今本の訓は誤也　坂上爾曾安留。此坂の上に來りて古をおもひてよめる歟

城國爾。不止將往來。妻社。今本に都末とあるは誤也妹山の事をよめるなれは也　妻依來西尼。妻常言長柄。なからは既にいふ如く隨の意妻のまゝ也妹山の名をもて云歟下はこゝに山もいもといひなから實の妹にあらすまことの妻をよせこよといふならん一云爾賜奈毛爾云長柄と見ゆ

右一首或云坂上忌寸人長作　既にもいふ如く家集なれはよみ人かくとある人のいへはそれによりて書加へられたるぞ家の集のまとなるへしかゝる書加へにならひて後の人みたりにあらぬ事を書加ふる事として書添しは前に云如く其妄なる證見ゆそは改て皆捨

後人哥二首　右の行幸の時夫は從駕にて紀の國に至りたるに妻の都にとゝまりたるをおくれし人とは書たるなり

朝裳吉。冠辭　木方往君我。木方の方はゑのとくとなふ　信土山。紀伊國也今も眞土峠と云有　越濫今日曾。雨莫零根。此哥は妻のよめる哥にて意明か也

後居而。吾戀居者。後に戀をるにといふに同してにをはなり此例既に出つ　白雲。棚引山乎。今日香越濫。

献忍壁皇子　天武天皇九のはしらの皇子　哥一首　今本こゝに詠仙人形てふ注は書體も俗にて家持卿の筆ならさる事しるかれはすてつ

常之陪爾。とこしへはときならへてふ言にて絶さるをいふなり　夏冬往哉。裘。扇不放。山住人。この哥は仙人の繪を見てよ

めること哥にてしらる意は袁は冬の物扇は夏の物なるをひとつに畫たるゆゑたえす夏冬行とはよめるなり

獻舍人皇子 同し天皇五はしらにあたり給ふ皇子なり **哥二首**

妹手。冠辭 **取而引與治。**既いふ如く取ひき攀也是迄は序也 **捄手折。吾頭刺可。**今本吾下刺の上に頭を脫せり刺をかさすとは訓かたし次の二首めの哥の例をもて頭を補へり **花開鴨。**

春山者。地名なるへし **散過去鞆。三和山者。未含。君待勝爾。**かゝるがては不勝の字をあてたれどまつがためと云也やがてがての呈は多米の約なりさて哥は明也

泉河山城國相良郡 **邊間人宿禰作哥二首**

○河瀨。激乎見者。玉藻鴨。藻は借字にて助字也玉かも也 **散亂而在。此河常鴨。**河とのとは門也此二首合見れはうつくしき小石なとの色あるがはやき瀨に流ちりて多しと見えたり

彦星。頭刺玉之。嬬戀。亂祁良志。此河瀨爾。此哥も石の事なれとこは彦星の挿頭の玉の妹戀あまりてちらしみたらしたるかとたとへよめる也けり

鷺坂山城國久世郡下の哥に山城の久世のさき坂とよめり **作哥一首**

白鳥。冠辭 **鷺坂山。**眞淵は白鳥の鷺とつゞけしはことなしといへとしかいひては冠辭の例に違り仍ておもふに志良約左なれはしら鳥のしろきといひかけたる歟さぎのきは濁音なれとかゝる事には濁濁をいまさるは例也さて白鳥とはまことは鵠をいふなりこゝにしら鳥といふはなにとさしたるにはあらすたゝに白鳥といふのみなり **松影。宿而往奈。**今本ゆきなと訓るは誤れり

夜毛深往乎。

名木河山城國久世郡 **作哥二首**

標を見るに二首をさりて一首とすこゝはもとより二首ありしか脫しなれは本を殘して二首とおきぬ今は一首なり

詞草小苑に云白鳥なるもの鷺とかゝるなりなるものゝ約能也

焮干。人母在八方。沾衣乎。家者夜良奈。羈印。 久しき旅になれそこなへる衣なるやらで旅行を隔句にかくいふにて第三の句を初句の上に終の句を第二の句の下へかけて心得しるぬれ衣をほす人あれや旅のしるしにはやらなといふなり

今本此間に名木川の哥今一首を落せり

又次の哥のはしと葉も落たるなるへし

杏人濱作哥一首 こゝにかくあるへきを脱し事上にいふ如くなれは標にもこゝにも補へり

在衣邊。荒磯なり著而撈尼。尼は借字海人なり杏人。 此杏の字をからと訓へき事心得すされと訓によりて前後の哥もて考れはしかの唐崎なといふあたりの地名と聞ゆされはからはまならんかおしていはゝ杏はからもゝと訓はそをもてからに借しかされとあまりしき用ひさまなれは誤とすへしおもふに唐の草を杏と見し草の手より誤りしならんか

濱過者。戀布在奈利。 哥の意はから人の濱の磯へにつきて撈行海人の小船のにはよきにこゝをすきされはそのさまのこひしくしたはるゝとなり

○高島作哥二首

○高島之。阿渡河波者。驟鞆。吾者家思。別加奈之彌。 人万呂のさゝの葉は眞山もさやにさわげども吾は妹おもふ別きぬれはてふをよみうつせしなれは末はわかれかなしみなるへし今本別を宿とし訓はたびねとせりかゝる例もなく又客の字とすれはたびをと訓んには乎の字を添べき事なれは宿は前の別の草の手の誤りとして改む

○客在者。 此初句は結句にかけて見るへし旅なれは夜中にも道行は其照月のかくるゝをも見る也此五言もて古への調のよきを見るへし

高島山。隱惜毛。三更刺而。照月。

紀伊國作哥二首

○吾戀。妹相佐受。 あはずといふを延たる也佐受約受也旅なれは妹にあはす也

玉浦丹。衣片敷。一鴨將寐。

○玉匣。冠辭開卷惜。惐夜矣。袖可禮而。 惐は惜に同しくをしむ也妹か衣手離て也旅なれはなり

一鴨將寐。

鷺坂作哥一首

細比禮乃。冠辭細をたくと訓よしは冠辭にいへりされと眞淵はさぎとかゝるよしを云きこも細比禮乃白とかゝる事前の白鳥の鷺坂とかけしに同く志羅約左なる故さきの左の一字のみにかけ云事前にいふか如くこをもて前の說とすへし 鷺坂山。白管自。吾爾尼保波氐。妹爾示。さて此四の句の氐は泥にてねの意也今の京の俗言に雨ふらで野もあをみたんといふに同し此泥は平聲にあらす上聲に唱ふ哥意は白鷺鷥の色のわれににほひつかね妹に示さんと云也

泉河作哥一首

妹門。冠辭 入出見河乃。山城國相良郡に在 床奈馬爾。川のとこなめをいひてそれより殘雪のとこしなへなるにいひよせたり 三雪遺。三は借字例の眞の意也 未冬鴨。

名木河作哥三首

衣手乃。冠辭 名木之河邊乎。春雨。吾立沾等。家念良武可。家に思ふらんをにを畧て家もふとい へり

家人。使在之。春雨乃。與久列杼吾乎。沾念者。哥意は吾をはやもかへりねともふ家なる人のつかひならめかく雨をさけよくれどもぬらしぬるよと思ふと也

焱干。人母在八方。家人。春雨須良乎。間使爾爲。間は眞の意也哥は前の意の哥の如し

宇治河作哥二首

巨椋乃 山城國伏見と淀の間に在 入江響奈理。射目人乃。冠辭也此目は牟禮の約也 伏見何田井爾。何は乃に通ふ田井は田居也遠き田に假ほつくり居を云 雁渡良之。

片は借字と有はわろし片心にかけて待意故正字とこそいはめ

金風。山吹瀬乃。響苗。此苗も例の並なり　天雲翔。雁相鳴。秋風は山に吹なる故山吹の瀬にいひかけて其風に其瀬のなみ立響故にそこに居たる鴈のこなたへ天雲とひとしく飛來るにあひしと云也初句二の句のもちゐさまいたく後の世ふりなり

献弓削皇子　淨見原天皇四柱の皇子　哥三首

○佐宵中等。夜者深去良斯。鴈音。所聞空。月渡見。月のかたふける方に鴈の鳴わたるげに物しづかにあはれもことにて且夜のふけたることもしるき空のさまなるをもてかくよめるなるへし

妹當。茂苅音。夕霧。來鳴而過去。及乏。哥意は妹かあたりにしげからん鴈のわか方にたらまほしきまて鳴過るといへる也とほしきはすくなきにて既に云如く足欲數を約たる也

雲隱。鴈鳴時。秋山。黄葉片待。時者雖過。黄葉をかたづにまつ也片は借字正しくは方也さて今則秋の時なればもみちの遲きをいふなり

冠辭考に云こは油たぐるとつゝけしなるへし具利の

献舍人皇子哥二首

捄手折。冠辭　多武山霧。霧雨ならん　茂鴨。細川瀨。大和の地名なるへし　波驟祁留。ある人遠つ國へに遊へるかいへらく高山には霧雨いと〳〵つよく里の大雨の如しとさらは谷川などの細きは激つへし

冬木成。既に是を盛の誤とすれと字書を見れは成も盛の字に同しく借るへし　春部戀而。殖木。實成時。片待吾等叙。こは相聞の哥也下に相聞とわかたれぬれは此哥こゝに入へからねと撰集とちがひ私の家の集なれは筆にまかせられかく斗の事はあるへけれは見過すへし

舍人皇子御哥一首

黑玉。冠辭　夜霧立。衣手。冠辭　高屋於。地名也河内國古市郡に在　霏霺麻天爾。

約束なれば約束とは云りさて云こゝ
ばと其幾なるて通し
るは多加つ加にけたい
ひかけ例のと冠辭々のゆ偖
是なのもとみてゆゝ
調てはこのこのこと
わりなろのは語てこのこ
もてなけれのこのこと
なとけなれのこのこと
よみつ

鷺坂作哥一首

山代。久世乃鷺坂。自神代。春者張乍。秋者散來。佐保川の柳にも張とよみたりさてはるは草木のめはるをいひて秋のちるをいふのみ

泉河邊作哥一首

春草。冠辭 馬咋山自。山城國綴喜郡に咋岡神社と有に同し地か委は冠辭に云今本是をうまくひやまをと訓るは誤れりまぐひの山ゆと訓へし自ををと訓る例無 越來奈流。鴈使者。たゞ鴈を云此比の事なれは唐意にていふ 宿過奈利。すきぬる の意也

献弓削皇子哥一首

御食向。冠辭 南淵山之。巖者。落波太列可。消遺有。今本消を削に誤て末の句をうるなみたれかけづりのこせる

と訓しはわらふへしよて字を改
調を改むこは橘の千蔭か考也

右柿本朝臣人麻呂之哥集所出 今本には集所出てふ三字を脫左の人万呂の哥とてあけし哥の端ことばとせるは誤り也又標には哥の下に二首と加へしはいよ〳〵後人のさかしら也さて大寶元年幸紀伊國時の哥十三首後人の哥二首は哥ともの前に哥數をあけ此次々ははし詞に哥一首二首云々と哥數を擧て其哥共の終に高橋蟲万呂哥集所出あるは笠金村あるは田邊福万呂なと哥集出とある下の例によりてこゝの書體をあらためぬ次〳〵にてらし合せて見るへし

吾妹兒之。赤裳泥塗而。ひたして也豆智約智是を再延れは多志となるなり 殖之田乎。苅將藏。倉無之濱。かりてをさめんまてはくらなしの濱をいはん序也倉無濱後のものに豐前と有猶可考

百傳布。冠辭今本百傳之とあるは之は不の誤歟又布歟委冠辭考に在 八十之島廻乎。搒雖來。粟小島者。和名抄に阿波板野郡小島乎之と見ゆ紀伊國粟島にあらす 雖見不足可聞。

右二首或云柿本朝臣人麻呂作　今本こゝに或説を擧しは家持卿の書給へる也此二首の右にはし詞あるべき例なれと何てふ傳へもなく且きはめて人万呂の哥ともなけれは人万呂家集の哥の次に出しあけて或説を哥の右にことわられたる物なるへし

登筑波山詠月哥一首　今本哥を脫せり例によて補ふ

天原。雲無夕爾。烏玉乃。宵度月乃。入卷惄毛。

幸芳野離宮時哥二首

瀧上乃。三船山從。秋津邊。來鳴度者。誰喚兒鳥。

○落多藝知。流水之。磐觸。與杼賣類與杼爾。月影所見。たぎりて流る川の月影は岩間の淀みにのみ宿れるが見ゆる物なるをそのまゝによくいひとりつ

右二首作者求詳

槐本　姓ならんされと其人はしられす　哥一首

樂波之。冠辭　平山風之。海吹者。釣爲海人之。袂變所見。意明也

山上哥一首　山上は姓にて則憶良をいふならん此哥卷一に既に出

白那彌之。卷一の説によりて改那は加の誤ならん　濱松之本乃。一本木を本とするはよしよりてあらたむ　手酬草。草は借字種の意也　幾

世左右二箇。年薄經濫。卷一には年の經ぬらんとありされと此卷は私の集にてうち聞まゝにかき入給へるなれはてにをはのかゝるほとの事はいか斗もあるへし

卷一に幸紀伊國時河島皇子御作哥或云山上憶良とあるはこゝに山上哥とあるによりて後人の書加へなるをしりて眞淵はすてつこゝは山上の哥と傳へのまゝに家持卿の書給へるなれは今本こゝに右一首或云河島皇子御作哥と書たるはかの卷一によりて後人のさかしらにかき加へたるをしるよりてすてつ

春日　春日藏首老か下に春日藏とあるも同人なるへし　哥一首

三河之。地の名ならん三河國にはあらすされといつくとはわきがたし　淵瀨物不落。左提刺爾。衣手潤。干兒波無爾。四の句潤今本に湖とあるは誤也訓によりて改一本に溫とあるは濕の誤なるへしいよ〳〵今本の誤なるをおもへ

高市　高市連黑人ならんか　哥一首

足利思代。今本あしりおばと訓るはわろふへしことに思は於の假字にてにをはに用る例なく訓を假字に用る例も違ひぬ　集伴意也言の解は前にいひつ　搒行舟薄。高島之。足速之水門爾。既出近江地名也こゝにあとのみなとゝうけたるもても今本初句の訓を誤るをしるへきなり　極爾濫鴨。

春日藏哥一首　此哥も上の春日と同しくてふ事既云

照月遠。雲莫隱。島陰爾。吾船將極。留不知毛。意明也

今本こゝに右一首或本云小辨作也或記姓氏無記名字或稱名號不稱姓氏然依古記便以次載凡如此類下皆效焉といへるはまたく後人の注明らか也よりてすてつ姓をいひて名をいはす名をいひて姓をいはぬなとは私の集なれはたやすく畧もすへきをや

元仁　こは名なるにやさらは法師か　哥三首

馬屯而。打集越來。今日見鶴。芳野之川乎。何時將顧。哥意明也

辛苦。晚去日鴨。吉野川。清河原乎。雖見不飽君。苦毛落來雨可てふにてよめるならん體似ものにあらす

吉野川。河浪高見。多寸能浦乎。不視歟成嘗。戀布眞國。眞久約本にて戀しけんになり

絹　名なるへけれはかくよむへし　哥一首

河蝦鳴。六田乃河之。川楊乃。青やきといへは川楊と訓へし案に奈義約爾なるを同行の義にも通へは奈を畧くは例也刺楊根はふともよみたれは根とつゝけた

久は助辭也又之久の約須にて此須は之多留の約こしたるもしるくと云也

るは例也 根毛居侶雖見。不飽君鴨。此哥も相聞の哥也ことは上の冬木成てふ哥にいへるか如し

島足名なるへし 哥一首

欲見。來之久毛知久。吉野川。音清左。見二友敷。見まほしみこしかひありて音さやけく見るにたらまほしみする也やかて見あかぬをいふ也

麻呂名なるへし京職大夫麻呂卿を云か少しくなめけ也他人ならん 哥一首

○古之。賢人之。遊兼。吉野川原。雖見不飽鴨。卷一に淑人之よしとよく見て又卷八に妹か紐ゆふばかうちをいにしへのよき人見きとこをたれかしるなとよみていにしへの益人のあそひし所といひつたへたり

右柿本朝臣人麻呂之哥集出登筑波山詠月云々以下の十四首人万呂集の哥なる事既にいふかことし

丹比眞人哥一首

難波方。鹽干爾出。玉藻苅。海未通女等。今本あまのをとめらと訓しは例にたがへりよりて訓を改む女は例によりて補へり

汝名告左禰。今本つげさねとあるも卷一にいふ如く誤なり

和哥一首

朝入爲流。人跡乎見座。乎は助辭そへて云のみ 草枕。冠辭 客去人爾。今本客を容に誤仍て改 妻者不敷。數は借字及の意妻の如くにはあらし也

石河卿哥一首

名草目而。今夜者寐南。從明日波。戀鴨行武。從此間別者。こゝよりわかれなばなり

宇合卿哥三首

曉之。夢所見乍。梶島乃。後の物には丹後とあり心ゆかす此哥の前の哥難波次々は山城近江の地名あり遠き國ならし可尋 石越浪乃。如く

を入て心得へし 敷豆志所念。敷は及の意也是より上四首は極めたる相聞の哥なり事は既にいふか如し

山品之。山城也 石田乃小野之。母蘇原。柞の多ある所也俗言に楢にあたる 見乍哉公之。山道越

良武。

山科乃。石田社爾。一本社ともあり 布靡勢者。今本布靡越者とありてふみこえばと訓しは何の事ともなし巻五に山代、石田杜、心鈍、手向爲在、妹

雜相、巻三の長哥の末の句に山科之、石田森之、須馬神爾、奴左取向而、吾者越往、相坂山遠、またく此二首もてよみたる哥なれは越を勢の誤としてたむけせばとあらたむ布靡の二字をたむけと訓は義訓也ぬさは布麻の類を裁切て袋に入て旅行人道の神に奉るなれは布なひかすとは書きたるなり 蓋吾妹爾。直相鴨。

碁師 碁檀越と有人歟師とはあがめたる意なり 哥二首

母山。地名いつれの國かしらす但次の哥も同し時の哥と見ゆさらば近江國高嶋郡より見る山歟 霞棚引。左夜深而。吾舟將泊。等

萬里不知母。行とゝまる地をしらすといふ也

思乍。雖來來不勝而。水尾崎。近江國高嶋郡紀體式高嶋郡水尾神社二座とあり和名抄にも同しよしに見えたり 眞長乃浦乎。

又顧津。

小辨 左右小辨なる人を云か誰とも知かたし 哥一首

高嶋之。足利湖乎。搒過而。鹽津菅浦。今香將搒。一わたりに打きゝては人事めけれどさにはあらし其鹽津菅浦てふ地の名をは聞てまだしらぬを今舟人の搒行らんこゝはそこかと云也かゝる體もある事也今本者をかと訓しは誤也訓により香と改

伊保麻呂哥一首

吾疊。冠辭 三重乃河原之。紀雄碁に伊勢國之三重采女和名抄に同國に三重郡あれは伊勢なるへし委は冠辭考に云 磯裏爾。裏は借字浦也 如是

鴨跡。かばかり面白所かなとて蛙の鳴かとなり 鳴河蝦可物。

式部大倭 かくあるは氏か又大氷かおほくは氷の草を倭と見誤しならん 芳野作哥一首

○山高見。白木綿花爾。落多藝津。おちたぎりつるの畧也卷八に泊瀬川白ゆふ花に落たぎつと有 夏身之河門。

字の如く心得すみて訓へし 雖見不飽香門。

兵部川原 此人誰ともしりかたし 哥一首

大瀧乎。過而夏箕爾。傍爲而。傍は搒の誤にてこきて率而かと云説もあれと端詞に川原の哥とあれは字のまゝよみこせのまゝにて安らかに心得らるゝなり

淨河瀨 見河明沙。

詠上總末 和名抄上總國周准と有 珠名娘子哥 今本哥字なし前後の例により補 一首并短哥 是より下二十三首は末をもて見れは高橋蟲万呂か家集より拔出て家持卿の擧給る也

水長鳥。冠辭水は須伊約志なれは借れる也 安房爾繼有。安房の方へつゞきたる上總なれは云 梓弓。冠辭 末乃珠名者。胸別之。人相に乳の間の廣を英雄の人とする是賊されと形もていふはをとめにふさはしからすこゝは心の思ひあけのせきからぬをいふ歟 廣吾妹。六言 腰細之。冠辭 須輕娘子之。其姿之。端正爾。如花。咲而立者。玉梓乃。冠辭 道行人者。

已行。道者不去而。不召爾。門至奴。指並。隣之君者。頓。今本頓を預に誤る頓は多知万知也次の長哥に頓に とあるによる 己妻離而。不乞爾。鎰左倍奉。またしはつかはし也玉名に寶物の鎰をさへわたしたる也玉名はさぶるこならん 人

乃皆。如是迷有者。容艶。緣而曾妹者。多波禮弖有家留。されば此さぶるこたはむれしてをるなり

反哥

金門爾之。金門は門の本の語卷六に左乎思鹿能布須也久草無良見要受等母兒呂家可奈門欲由可久之要思毛とよめり紀にも有本は鐵鎖の意より云也 人乃來立者。

夜中母。身者田菜不知。既いふたなしらすはたねらひしらす也 出曾相來。

詠水江浦島子。水江は氏浦島は名なり 哥 今本哥を脱前云如なれは補 一首并短哥 紀雄略二十二年丹波國餘社郡管川人瑞紀和銅六年夏四月割丹波五郡始置丹後國云

今餘社モ丹後ニ屬ス

水江浦島子乘舟而釣遂得大龜便化爲女於是浦島子感以爲婦相逐入海到蓬萊山歷覩仙衆語者在別卷云云

春日之。霞時爾。墨吉之。丹後の地名なり 岸爾出居而。釣船之。得本良布見者。

今本本を乎に誤る事しるかれはあらたむ 古之。事曾所念。一段也 水江之。浦嶋兒之。堅魚釣。鯛釣矜。今本矜をかねてと訓しは誤なり字によて訓を改 及七日。易にも七日而歸といひて古へより用ゐ來れりこは唐言なれど奈良にありては哥言に用ゆ 家爾毛不來而。

海界乎。今本に字美妓波と訓るはとらす 過而撜行爾。海若。神之女爾。邂爾。伊許藝趍相。伊は發語わしりあひなり 誂良比。四言次の加は計阿約良は利安約にて加計阿利安比也相閑の哥をうたひかけありあひて妹背の思を通しあふ也奥の嬢哥會哥、蒐名負處女墓哥、にも此言ありそこにも猶いふ也 言成之賀婆。言は借字事也既かけあひかたみに思ひあひたれはこゝは事成しといふなり 加吉結。此吉は伊の如唱ふる例也俗のかひつれだちと云類也つらねに結の字を書し仕唐字に連結と有によりてかけるなるへし 常代爾至。始に云紀の文もて見れは蓬萊にてこゝの字の如盡せす在代の國なり 海若。神之宮乃。六言既常代に至りとあれはこゝにわたづみの神の宮といふも卽蓬萊は海中の國なれはそれを指て言也龍の宮にはあらさるへし下にも常世べとあるもてもしれ 內隔之。內隔は內方也たとへは九重の內と云が如し 細有殿爾。細有殿は莊嚴のいつくしきを云細は妙と書に同し卽內宮の意もてかくいふなり 携。既に前に云 二人入居而。神のをとめとなり 老

目不爲。死不爲而。永世爾。即常世を云　有家留物乎。一段也　世間之。愚人之。世の中のしれたる人は此哥人の浦島子をさし云也後の物語ふみに世のしれ人なと云か如し　吾妹兒爾。彼をとめになり　告而語久。須臾者。家歸而。父母爾。浦島子か自の父母を云也　事毛告良比。如明日。あすのゞとは俗のあすのほとなと云か如し次のけふの心に對へいふ　吾者來南登。言家禮婆。妹之答久。いらへくは倍久約不にていらふ也或說にいへらくをつゝめし言也といへとさはつゝめがたし　常世邊爾。復變來而。如今。將相跡奈良婆。此篋。下に箱とあれと玉篋ともいへれはこゝもくしけとよむへし　開勿勤常。曾己良久爾。そこはくのこと也こと多く心をいれていふ言也そはかりを約云也　堅目師事乎。契をかたく也　墨吉爾。此男の在所をいふに二所共に墨江と書名をいふには水江とあれは墨江は在所也はしめに云如く水江は氏浦島は名なり右に引紀の文に管川の人といひて水江云々とあるを合て見るへし墨江は諸國に在名なれは余謝郡にも有しなるへし諸說は皆わろかりけり　還來而。家見跡。宅毛見金手。里見跡。里毛見金手。恠常。

四言　所許爾念久。こもそこゝらのそこに同し俗のそこて直に思ふと云意也　從家出而。三歲之間爾。墻毛無。家減目八跡。常世べにてたゞ三年のほとゝおもへるに垣もあとなく家もなからんやと也まことはいと年歷にたるを次々にいはんとてかくいふなり　此筥乎。開而見手齒。見たれはの約言也乎は多良約多なるを乎に通しいふなり　如本來。今本に來本と有は上下したる也　家者將有登。玉篋。小披爾。白雲之。自箱出而。こゝまてにくしけ共はこともいへれと皆一物也　常世邊。かの蓬來の方に也　棚引去者。立走。叫袖振。反側。足受利四管。頓。情消失奴。今本消を清に誤る　若有之。皮毛皺奴。しはみの美は半濁にてしはびといふに同しやがてしはぶりをつゝめし言なり　黑有之。髮毛白斑奴。由奈由奈波。由奈々々を夕な〳〵也そは夕部なれど調べのために重ね云とふ說あれと取かたし哥の意とほらねは也おもふに由奈約也也されば也々久の久を省きて也々波といふ歟かくいふは後遂にとあるにむかへてやうやくに息絕たりとせんか猶可考　氣佐倍絕而。後遂。壽死祁流。水江之　浦島子之。家地見。哥の始に古への事ぞおもほゆとあるもて

鶴長明無名抄云丹後國よさの郡にあさもかけの明神と

中神の事物神に拜いまつるものは物みな得給ひてくるなり神代にはなほ程なく青浦島とのなれる南翁の云傳

見れはこゝは見んとよむへし又思ふに見は是の誤にて家地是といふ歟

反哥

常世邊。可住物乎。釼刀。冠辭 己之心柄。於曾也是君。おそやとは鈍也心おそきをいふ也即浦島子をいふなり

見河内大橋獨去娘子作哥一首并短哥

○級照。冠辭 片足羽河之。河内國交野にて安寧天皇片鹽浮穴宮所なりしなり 左丹塗之。丹塗也左は發語のみ橋の高檻を塗る事既宇治橋なとも

ぬりたると見えてふるき石山の緣起の畫卷物に見えたり 大橋之上從。紅。赤裳數十引。山藍用。山藍とは山草にて何てふ事はなしこれに訛たる說多しやどとなき御說なりくはしく別記に云 摺衣服而。眞獨。伊渡爲兒者。伊は發語也 若草乃。冠辭 夫香有良武。橿實之。冠辭 獨歟將宿。問卷乃。欲我妹之。家之不知久。

こゝの三度約省とは有はいとむつかしと利阿波須の約留にて羽きりあはす也

反哥

大橋之。頭爾家有者。今本頭をほとりと訓しはわらふへし頭はかうべの訓の下のべを假字にかりたるにてやかて方の意也訓を假字に用る例は既云 心悲久。獨去兒爾。屋戸借申尾。

見武藏小埼沼鴨作哥一首

前玉之。和名抄に武藏國崎玉佐伊太末と唱るに伎を伊の如云例也 小埼乃沼爾。鴨曾翼霧。はねきるははねきりあはすを三たび約省きたる言也はねぎるの留を延れは良須となる又其良は利阿約也さて安波約安也かく延たるを約めかへせは留となる也さて羽振をかくいふなりけり 己尾爾。卷十挽哥の長哥の中に可母須良母都麻等多具比豆我尾爾波之毛那布利曾等之路多倍乃波禰左之可倍氐宇和波良比云々とあるもこゝに同しともに尾を美と訓へし 零置霜乎。掃等爾有斯。奈は爾阿約也故にかく書てならしと訓へし掃は打はぶり也霜を掃すてゝ水に遊をかくよめるなり

那賀郡 和名抄に武藏國那賀郡と有 曝井哥一首

三栗乃。冠辭 中爾向有。中とつゝけしは武藏國那賀郡に向ひてなかるゝをいふべし 曝井之。古へ井と云は多くは流水の事なり 不絕將通。たかれのたえずと云かけて上は序なり 彼所爾妻毛我。我は欲得と同しく願意也

手綱濱 此國地わきかたし武藏國の中なるか此哥の外此名見えす 哥一首

遠妻四。亭爾有世婆。今本亭を高に誤る諸成案るに驛亭の亭の草を高と見し誤也手綱の濱にもよしあれは亭を誤る事しるし或說に其を誤る歟といへと取かたし又高として遠々の意としては聞えす 不知十方。しられすともと云をはふける也 手綱乃濱能。尋來名益。哥の意は此驛に泊れる時相知し妹のあるよし又あはん事をおもひてよめるなり

春三月諸卿大夫等下難波時哥 こは幸のたひなるへし次の哥にてしか見ゆ 二首并短哥 并短哥と可有

例也こゝに脫せり標によりて補ふ

○白雲之。冠辭也眞淵か考にもれたり 龍田山之。瀧上之。小鞍嶺爾。開乎烏流。卷六花咲乎々留とも いひ又此言は卷二の別記にくはしく云今本に爲とあるは烏の誤也 櫻花者。山高。風之不息者。例のやまぬになり 春雨之。繼而零者。最末枝者。四言穗津枝の意借字也 落過去祁利。下枝爾。四言 遺有花者。須臾者。落莫亂。草枕。冠辭 客去君之。及還來。こゝに君と指は同しく幸の從駕の卿をさして大夫等のよめるなり

反哥

吾去者。七日不過。龍田彥。龍田彥は風の神にませはかく云也けり後に龍田姬とて紅色を愛とふ誤を知れ 勤此花乎。風爾莫落。

白雲乃。冠辭 立田山乎。夕晩爾。打越去者。瀧上之。櫻花者。開有者。落過祁里。含有者。可開繼。許智期智乃。遠近なり 花之盛爾。さかりにはのはを省けるなり 雖不見。左右。君之三行者。三行は幸也 今西應有。此哥前の哥よみたる大夫等にあらす同時別の大夫の哥也さるは哥の意にてしるへし或說に雖不見と左右の句の間に數の句の落たる歟といへと哥の意を考るに咲たる花はちりすきふゝめるはやかて咲ぬへけれど此花を盛に見がてなるをいかにせんとにもかくにも幸は今なるへけれはと花の盛を見ぬを惜る也かく見すてはは反哥までもとほらす從駕のいとまなきをいふ哥とすれはとほりて聞ゆ

反哥

暇有者。魚津柴比渡。向峯之。櫻花毛。乎毛といふへきを乎を畧てよめり 折末思物緒。難波經宿明日還來之時哥一首幷短哥

○島山乎。射往廻流。河副乃。丘邊道從。昨日已曾。吾越來壯鹿。一夜耳。宿有之柄二。これより上は難波河内なとの事也峯上よりして立田の事也此立田の事眞淵か說に今の平群郡なるは後にうつされたるにて古への立田は高市郡也といへり此前の哥の小倉の峯といへるも今のくらかり峠にてこゝに小倉と云山有紀神武に越立田山大和に攻入らんとおほしけれと山けはしく道せばくして不叶とあれば也といへり此哥の立田もそこなるべし 峯上之。櫻花者。瀧之瀨從。落墮而流。君之將見。其日左右庭。山下之。風莫吹登。打越而。名二負有杜爾。前にもいへる如く立田彥は風の神にて式の祝詞にも朝廷の風神祭ると有是也よりて名に負といへり 風祭爲奈。此哥は前の哥とも以て見れは幸につきて御先へ行てかへりくる人の從駕の大夫等をさして君といひたる歟反哥の兒もかもとこゝにあはせてしるへし

反哥

射行相乃。冠辭考をとめらにゆきあひのわせてふ條に擧し如く龍田越の道に在地の名なるへし 坂上之蹈本爾。今本に坂上を字のまゝによみしは誤り也 開

奥人按にうそふきの字は伊伎の約伊曾は曾伊の約なし通ずの字に約にて息外刀の吹ちふ言なるへし

乎烏流。今本爲とあるは既云如く烏の誤り也　櫻花乎。令見兒毛欲得。

檢稅使大伴卿登筑波山時哥一首幷短哥　作の字もなく哥意も自の哥ならす國官のよめるならん

○衣手。冠辭　常陸國。六言　二並。こは此山に男神女神のむかひておはせば也卷十四登筑波岳丹比眞人のよめる長哥の中に明神之貴山乃儕立乃見梟石山跡とあるも明にはあらす朋なれはともにふたなみ也そのよしはそこにいふ也　筑波乃山乎。欲見。君來座登。熱爾。汗可伎奈氏。六言今本氏を氣とす哥意もて誤をしるよりて字も訓も改む　木根取。嘯鳴登。上の五句は嶮岑にのぼるさまなり　岑上乎。君爾令見者。男神毛。許賜。六言　女神毛。千羽日給而。ちはひはさちはひの佐をはぶくのみ　時登無。俗の時ともなくと云に同しくとこしくときしくと同詞也　雲居雨零。今本布利と訓さてはてにをは遠ふ布留と訓て筑波根をと訓　筑波嶺乎。清照。雲井雨降るは此山のつねにしてふらし照し見せしめ給は此神の意なり　言借石。四言いふのふをにごるは借字の常也扨言の意はいふせきなとに同し今の訓は四言の句ありともしらぬ人のわさなり　國之眞保良乎。まほらは眞中といふに同し　委曲爾。四言　示賜者。歡登。四言　紐之緒解而。かたぬきなとして打くつろきたるをいふ也　家如。解而曾遊。心うちとけてあそふなり　打靡。冠辭　春見麻之從者。夏艸之。茂者雖在。今日之樂者。

反哥

今日爾。何如將及。筑波嶺。昔人之。將來其日毛。

詠霍公鳥哥　今本哥の字を脫標にあり例をもて補へり　一首幷短哥

鶯之。生卵乃中爾。霍公鳥。獨所生而。己父爾。似而者不鳴。六言　己母爾。似而者不鳴。六言　宇能花乃。開有野邊從。飛翔。來鳴令響。橘之。花

乎居令散。とまり居ちらし也　終日。雖喧聞吉。幣者將爲。今本幣を弊に誤る遠へる事しるけれはあらたむ幣は賂の意なり　遐莫去。吾屋戸之。花橘爾。住度鳥。

反哥

搔霧之。羅志は利の延言かきくもりと同意　雨零夜乎。霍公鳥。鳴而去成。何怜其鳥。

登筑波山哥一首幷短哥

○草枕。冠辭　客之憂乎。名艸漏。事毛有武跡。筑波嶺爾。登而見者。尾花落。師付之田井爾。雁泣毛。寒來喧奴。新治乃。鳥羽能淡海毛。常陸國に新治郡有そこの鳥羽てふ地の湖に波立はかく云　秋風爾。白浪立奴。筑波嶺乃。吉久乎見者。計久約久にて乎は助字よく見れは

師付今雫村筑波の麓在と或いへり

奥人案に須蘇廻乃田井童蒙抄云すそわの田井とは山のすそめくりの田井とよめる也云々

或云筑波の古き人に不知事といへり今は事毛有あれと人妻なしと云り韓玉篇往來貞韓詩田囉哥也人哥也

奥人案に今本卷六蘇波宮作田逢福廣か長哥に夕薤丹闕か櫂合之聲所聞とコヱ有かひ人は上の加は加伊約加に通せ加計し阿伎乃次の加にては加てい約加のおとかてふけあひのこのかゆ意にてこのかゆひとは別言と聞

長氣爾。念積來之。憂者息沼。

反哥

筑波嶺乃。須蘇廻乃田井爾。秋田苅。妹許將遣。黃葉手折奈。

登筑波嶺爲囉歌會日作哥一首幷短哥　此爲囉哥會日とあるをかがひしてつとへる日と訓說有あしからねと此國ぶり

ならす既哥もてかゞひの事を見るに哥を掛合うたひて戯つとふ日也されは囉哥會をかゞひと訓すれする日とよむぞまさるへし

○鷲住。筑波乃山之。裳羽服津乃。地名なるへし　其津乃上爾。率而。未通女壯士之。往集。加賀布囉哥爾。上の加賀布は辭にて掛合の約言也下のかゞひは名とせる故同言を體にていふのみ　他妻爾。吾毛交牟。交は義もて書ける也他妻將求の意こをかよはんさらんなと訓は皆あたらす　吾妻爾。他毛言問。此山乎。牛掃神

奥人按に目串の久は久初の約にてめくるしてふ言也卿目苦の意也

之。牛掃は借字主張にてぬしばるなり　從來。不禁行事叙。いましめずゆるし給ふを云なり　今日耳者。目串毛勿見。吾妻を目細もな見めでそとなり　事毛咎莫。こと人よりもいひとかむなと也

耀哥者東俗語曰賀我比　此注蟲万呂の集の時耀哥の事を注したると見ゆれは此所にあけつへしさて今も土佐國匂美郡大川上美良布神社式に有其事号二韮生一と有て今も韮多此祭に出す此かゞひに同しく不義を不禁神の意に叶ふと云傳へたりとて是もかゝるたぐひと哥もて明らかにしらる是は此國人の哥也

反哥

男神爾。此山を前に二並と云も此男神女神の二峯もて云　雲立登。斯具禮零。沾通友。今本沾と有は誤也一本によりて改む　吾將反哉。かゝる神事のたはれたる日なれは雲立しくれはふるともかへるましと云也

右件哥者高橋連蟲麻呂哥集中出　以上廿三首の事前にいふ

詠鳴鹿哥一首幷短哥

三諸之。神邊山爾。立向。三垣乃山爾。秋芽子之。妻卷六跡。朝月夜。明卷鴛視。足日木乃。冠辭　山響令動。喚立鳴毛。

反哥

明日之夕。不相有八方。足日木之。冠辭　山彦令動。呼立哭毛。

今本こゝに右件或云柿本朝臣人万呂作とあるは時代のしらへあるとも歌のことしらぬ後世人のひかわさ也此あつめ主家持卿のしらへには近きものをよてすてつ

沙彌女王　今案に沙彌氏御母方の姓歟又さみの子てふ哥もあれは沙彌滿誓なと云僧の沙彌にはあらす　哥一首

倉橋之。大和國十市郡　山乎高歟。夜窄爾。出來月之。片待難。此哥相聞なるを常の哥の部にはふとのせられたる

參十三に明人宿禰大伯卿等二首其二首めに椋橋乃山

乎高可夜隙爾出來月光乏すとあるは此改る卷の序もて見れは既云如必此卷十一の卷也さらはこゝに既出とは書へからす其上十三なるは月のみの哥こゝは相聞の哥也必女王の哥にて同案の終の句のたかへろ也されは後人の僻わざなる事しるし

か片まちかたきて
ふ言もてしらる

今本こゝに右一首間人宿禰大浦哥中既見但來一句相換亦作哥兩主不敢指因以累載とあるは既沙彌女王の哥と定てあけられたるに又此注あるへきならす後人のわさ也仍て捨

七夕哥一首并短哥

久堅乃。冠辭 天漢爾。上瀨爾。珠橋渡之。下湍爾。船浮居。雨零而。かくやうにも 風不吹登毛。風吹而。雨不落等物。裳不令濕。不息來益常。玉橋渡須。

うけ云事古き體にあるは自らなる如聞えりこはよろし共聞えす

反哥

天漢。霧立渡。秋の來りしを云 且今日且今日。吾待君之。船出爲等霜。

拔氣大首一本然也

右件哥 今本こゝに或云と有しからさる事下云 中衞大將藤原北卿宅作也 北卿は房前卿也且上の哥の下に或云の二字有此哥家持卿の作るとおもはるれは自或云てふ事をかゝるへき事にあらすこははしめの哥ともにかくかゝれしもあるもて其よししらぬ後人のはしめにならひ書加へししるし哥のすかた書體もて家持卿とはしらる

相聞

振田向宿禰退筑紫國時哥一首

吾妹兒者。久志呂爾有奈武。くしろにあれかし也手に纏玉也釧の事は冠辭考釧著佐久々志呂玉釧の條に委 左手乃。釧は左右共にあるを左とのみ云は右手はつかふ事繁き物なれは其方をはいみて左手の然も奥所に隱しもてつゝがなくつくし迄ゐてゆかんものをといふ也釧は左手にのみ有る歟と思ひ誤る事なかれ 吾奥手爾。纏而去麻師乎。

和氣大首 一本に拔とありされと明ならすよて考るに拔は和の誤にて和氣氏歟大首はかはねならん前後氏尸のみなれは是もさならんと思侍る 任筑紫時娶

豐前國娘子紐兒作哥一首　今本三首とあれと一首也次の二首端詞の落たるにて別の哥也

豐國乃。加波流流波吾宅。かはるは地の名也豐前國河田郡香春の郷此所に紐兒か家あるなるへし　紐兒爾。伊都我里座者。伊は發語つがりはつながりにて俗のつながれと同言契沖云袋の口を鎖の如く縫をつがりといへり紐の兒の名によりて相思心緒をつがりをるをいへり兒が家は吾家也と云　革流波吾家。

此間にも端詞脱たり全本を得たる人書加へよ

石上。冠辭　振乃早田乃。穗爾波不出。心中爾。戀流比日。

如是耳志。戀思渡者。靈刻。冠辭　命毛吾波。惜雲奈師。

大神大夫任長門守時集三輪河邊宴哥二首

○三諸乃。四言　神能於婆勢流。佩にせるといふか如し神なれはあかみていふ　泊瀨河。後に三輪川てふも同し泊瀨は上なり　水尾之不斷者。水尾の緒は伊呂約即水色也流の絶ぬを云　吾忘禮米也。此哥大神大夫の哥なるへし

○於久禮居而　吾波也將戀。春霞。多奈妣久山乎。君之越奈者。こえなばこえ

いなばといふ也此哥は宴の時大夫の妻人姉妹なとの詠か調も然也

右二首古集中出

大神大夫任筑紫國時阿部大夫作哥一首

於久禮居而。吾者哉將戀。稻見野乃。播磨の國なり　秋芽子見都津。去奈武子故爾。たゝの人をいさことも行はたがこそなといふはあれとたゞ子といふはもはら女をいへりさらは大神大夫の妻なとに阿部大夫の贈たる哥なるか

献弓削皇子哥一首　女のたてまつれるなるへし

神南備。神依板爾。爲杉乃。神より板は神座の下の板をいふへしそれを杉板にてするもあれはこゝはおもひもすきすの序に置たるなり念母不過。戀之茂爾。

献舍人皇子哥一首　右に同し女哥也今本二首とあるは誤なり次の哥は別也

垂乳根乃。冠辭。母之命乃。言爾有者。年緒長。憑過武也。たのみといふからは母の末にはとゆるせる也末にやはやはの意なり

此間に今本端詞の落たる也既いふか如し次の哥は男の哥也

泊瀨河。夕渡來而。我妹兒何。家門。近春二家里。今本春を春に誤る

右三首柿本朝臣人麻呂之哥集出

石河大夫遷任上京時播磨今本磨を麿に誤仍て改む娘子贈哥二首

絶等寸笑。播磨の地名山之岑上乃。櫻花。將開春部者。君乎將思。是を今本におもはんと訓るは誤なり

○君無者。奈何身將裝飾。匣有。黃楊之小梳毛。將取跡毛不念。是をとおもはしと訓說あれと將取の下跡毛とある事諸本一同なれはとらんともはしとよむ共說の誤りならん

藤井連前に葛井連と有同し人歟遷任上京時娘子贈哥一首

○從明日者。吾波孤悲牟奈。名欲山。和名抄に豐後國直入郡直入鄕是か石蹈平之。君我越去者。

麻勢久可願奥人接に如是可訓歟勢はさきかれの約紗にてまさきかもとなるれ久にかもこせのまくありこせのまゝによみてむも宇なゝ改補にまさりなむ

和名抄に特牛（古度比ゝ頭大牛也眞淵云卷十六にも事たる負乃牛とと審に大牛負にて物なに殊に多負牛と云歟故

藤井連和哥一首

○命乎志。麻狹伎久母願。今本二の句麻勢久可願とあるはおちゐても聞えず考に勢は狹の誤其下に伎を脱し久は共まゝにて可は母の誤にて本文の如補へるは眞淵もいとやすからんと云り命はまさきくと云例集中多し正本を得て糺すへし　名欲山。石踐平之。後亦毛來武。今本終の句の復亦毛と有は全く字を誤る事しるかれは復を後に改て本文の如暫改なり

鹿島郡苅野橋　和名鈔輕に作　別大伴卿哥一首并短歌

牡牛乃。冠辭今本牝と有は誤也此牡牛の事もつゝけからも冠辭に委　三宅之滷爾。今本滷を酒に誤ごもよしは冠辭考に委し三宅は和名抄に下總國海上郡三宅郷と有　指向。鹿島之崎爾。狹丹塗之。既云如く狹は發語丹塗にて赤色なり　小船儲。玉纏之。小梶繁貫。夕鹽之。滿乃登等美爾。汐の滿終たるを四國にてはとゝひと云美と比の濁と通ふ東にてはたゝへといふ又音通へり　三船子呼。大伴卿の乘給へる舟の水主なれはみふなことあかまへ云すべて狹塗玉纏もあがまへ云なり　阿騰母比立而。喚立而。三船出者。濱毛勢爾。道も狹にといふに同しく送り人の濱せまきまてにならひ居て也　後奈居而。おくれならひをりてと云也　反側。戀香裳將居。足垂之。泣耳八將哭。海上之。卽三宅の郡の名也　其津乎指而。今本乎を於とす一本によりて改　君之己藝歸者。泣耳將哭以上の七句は大伴卿をしたひおほくの人のなごりを惜をいひ海上を指ていにまさばと句を終

反哥

海津路乃。名木名六時毛。渡七六。加九多都波二。船出可爲八。此反哥長哥をうけたる事見えず長哥に海路のあるゝ事もなし其上長哥はあがみ此哥はなめげ也然れは異哥のまきれてこゝに入しならん

右二首高橋連蟲麻呂之哥集中出

麻呂本呂と有なも追いかと改なたるけ有へき

奥人按に今本追と改へき

奥人按に麻呂追とかなるへしこのまきたかしはそのよかはかくしてもかすかへしたりてはたりてはむと丸かはやし串なきあらいふへる心なり

與妻哥一首

雪已曾波。春日消良米。心佐閉。消失多列夜。言母不往來。意明なり

妻和哥

松反。待却て也 四臂而有八羽。強て也待とは強言にてあるか也 三栗。冠辭 中上不來。麻追等言八毛。今本呂は追の誤末の子は毛の誤ならんとして暫字を改其據は卷十七に大伴家持思放鷹夢見感悅作哥に麻追我弊里之比爾而安禮可母佐夜麻太乃乎治我其日爾母等米安波受家牟此哥は今の哥の意をとられしと見ゆれはもとの句の意は明らかにしらるこれによりて今本の末句の字の誤もしらるさて哥の意はまたはかへりこんといひたるは强言にて其時も過てきまさぬからはまつといふ事はいはしものぞとうらめる也

右二首柿本朝臣人麻呂之哥集中出

贈入唐使哥

既いふ如く入と書しは此比より誤たる也よてしか訓

海若之。何神乎。齋祈者歟。海中にていつれの神を祭ばよからんと云也 往方毛來方毛。久佐の左は須良約にて行すらもくるす 船之早兼。此哥家持卿の哥なるへし此次の長哥笠朝臣金村哥集中の哥なれは此よみ人は自なる事あきらかなりらも也

奥人按に此哥は笠朝臣金村と今本に出

今本こゝに右一首渡海年記未詳と有は一本になし全く後人のわさなれはすてつ

神龜五年戊辰秋八月作哥 今本作を脫す 一首并短哥

○人跡成事者難乎。和久良婆爾。たまさかと同言既出つ婆は半濁をしらす 成吾身者。死毛生毛。君之隨意常。今本まゝにとゝ有はいまたし古きによて改む 念乍。有之間爾。虛蟬乃。冠辭 代人有者。大王之。御命恐美。天離。冠辭 夷治爾登。朝鳥之。朝立爲管。群鳥之。群直行者。留居而。吾者將戀奈。不見久有者。

反哥

三越道之。雪零山乎。將越日者。留有吾乎。懸而小竹葉背。長哥共にこは女哥也

天平元年己巳。冬十二月作哥　今本作字なし　一首幷短哥二首　今本此二首なし例に依て補ふ續紀十天平元年十一月癸巳任京及畿内班田使云々此時の哥なるへし

虛蟬乃。冠辭　世人有者。大王之。御命恐彌。磯城島能。冠辭　日本國乃。石上。冠辭　振里爾。六言　紐不解。丸寐乎爲者。吾衣有。服者奈禮奴。毎見。戀者雖益。色二山上復有山者。こは出の字を戯書せる也山上にまた有山は出の字也　一可知美。冬夜之。明毛不得啼。今本呼は啼の誤しるし仍て改　五十母不宿二。吾齒曾戀流。妹之直香仁。たゞかはまさ

かといふに同し妹に正に相時を云短哥の直に相左右をむかへ見よ扨此たゞは借字直人のたゞにあらすたゞし、まさし、たゞしき、まさしきといふは同言なるおもへ

反哥

振山從。直見渡。京二曾。寐不宿戀流。遠不有爾。

吾妹兒之。結手師紐乎。將解八方。絶者絶十方。直二相左右二。

件右五首笠朝臣金村之哥中出

天平五年癸酉遣唐使舶發難波入海之時　續紀天平五年三月遣唐大使多治比眞人廣成辭見授二節刀一夏四月己亥遣唐四船自二難波津一進發此時の遣唐使なり

親母贈子哥一首幷短哥

○秋芽子乎。妻問鹿許曾。一子二。子持有跡五十戸。今本ひとつごふたつごもたりといへと訓るは誤也

竹は借字寶の畧也此注甚誤れり削すへし卷三に云設よろし奥人

さては句も亂ぬ且鹿は子一つ生もの故に次の冠辭にも鹿兒自物吾獨子とつゞくるにあらすやされは今改る如く句を分てはいとやすらかに句も亂すことはりも明也かくやすらかに訓るゝ物をむつかしく訓てむつかしけにいひなすはわらふへき事なりとやことなき御說にはあるなり

鹿兒自物。冠辭**吾獨子之。草枕。**冠辭**客二師往者。竹球乎。**竹は借字にて寶の畧也神代紀に五百箇野簯八十玉串と有是也**密貫垂。**密は義もて書繁なり**齋戸爾。木綿取四手而。**四手は借字垂也**忌日管。吾思吾子。眞好去有欲得。**今本哥次に奴者多本奴去古本とあるは後人多本を見て書るにて家持卿自の書にあらすよて小書して本文はすてつ扨これをまよくゆかぬがもと訓てよくゆけがしと云意也例ありてふ說有例ありとも去の下の有の字を奴の誤とせばさもよむへし有のまゝにてはゆけれがもとよまんこそやすく然も古意にかなふものを後人のひかわさにつきてよまんや本文はなるへきほとはあるまゝに考助てやむ事得ぬ脫字を補ひ誤を糺すぞ考にはあれさてゆければゝ由伎阿體の伎阿約加なるを計に通してよめる例あり

反哥

客人之。宿將爲野爾。此二句はすべて此度の遣唐使に從ひ行人をさす也**霜降者。吾子羽裳。天乃鶴群。**むらはむれ也さては鶴は大鳥なる故に母の心にていひ出たるは愛情のいと深しまことの哥故しらへまてとゝのへり長哥も心深く短くやすらか也

思娘子作哥一首幷短哥是より下三首は田邊福万呂か哥集の中也

白玉之。人をほめて瑕なくよきを云**人乃其名矣。中々二。辭緒不延。**緒は假字にて言乎のはへす也反哥に横辭とあるをもおもへ隔る人のあれは吾言を妹にのべいはんよしなくあはぬ日多く重るといふ也**不遇日之。數多過者。戀日之。累行者。思遣。田時乎白土。肝向。**冠辭**心摧而。珠手次。**冠辭**不懸時無。口不息。**今俗の口につくと云是也**吾戀兒矣。玉釧。**冠辭今本に瓠と書て玉たすきと訓る誤考に委**手爾取持而。**とりもちて見ねはの意也**眞十鏡。**冠辭**直目爾不視者。**たゝちに見ねは也**下檜山。**攝津國能勢郡下樋山也こゝにひけるは下行といはん序のみ攝津國風土記の說まて云はわろし**下逝水乃。上丹不出。**色にはいてすといふに同し**吾念情。安虛歟毛。**かはの意にてやすきそらかはやすからぬとかへりてにをは也毛はそへていふのみ

宇治若郎子應神天皇の太子仁德帝の御弟なり御位を兄の帝に讓てうせ給へり紀に委しく見

反哥

垣保成。吾中を隔る也成は如也　人之横辭。邪言なり　繁香裳。不遭日數多。月乃經良武。

立易。月重而。雖不遇。核不所忘。核は借字實の意　面影思天。

右三首田邊福麻呂之哥集出

挽哥

宇治若郎子宮所。應神天皇は豐明宮に都したまへり若郎子命も始はそこに宮居し給しなるへし大和也　哥一首　是より下五首柿本人万呂の哥集の中なり

妹等許。冠辭　今木乃嶺。大和國高市郡紀畧には新漢紀欽明に今來紀齊明今城集中今城今木とあり皆同地也　茂立。茂一本並と有今本なみたてると訓たるは一本に並とあるによりたるなれと茂の字なれはしみたてるとよむへき事なれは訓をあらたむ　嬬待木者。古人見祁武。哥意は此今木の宮所のあたりの嶺にしけくたてる松は今も有其若郎子皇子の見給ひけんと古を思ひしぬひまつるより挽哥には入たり妹らかりの冠辭より松をつままつといひかけたり

紀伊國作哥四首

黄葉之。冠辭　過去子等。携。遊礒麻。見者悲裳。むかしこゝに遊し妹のみまかりたる後又來てよめるなり

鹽氣立。荒礒丹者雖在。往水之。冠辭　過去妹之。方見等曾來。この哥の句のうち往水のとある水を礒の水とおもふへからすたゞ冠辭とせでは舌意にあらす且川の水は行といふへし礒の水にはふさはしからずかへす〳〵すきにしといはんのみの冠辭と見るへし

古家丹。家は假字へにかりしのみ今本ふるいへとよみしはわろふへし　妹等吾見。黑玉之。冠辭　久漏牛方乎。見佐府下。

玉津島。礒之裏末之。眞名子仁文。今本の訓によりて落字をしる名仁の間に子を脫る事しるかれは補へり　爾保比豆

島の上に時字既しなるへし奥人

去名。訓により て呂を補 妹觸險。玉津島のいそのほどの砂のうつくしきをそのかみ妹か手ふれなとしけんを思ひ出てよめる也

右五首柿本朝臣人麻呂之哥集出

過足柄坂 今本坂を板に誤る仍て改 見死人作哥一首 是より下七首は田邊福万呂か集中也

小垣内之。麻矣引干。妹名根之。名根は稱美辭男を名背といふに同し名は大名持の如く根は母の國を根の國といふ根にて根元の根也名ある人をたゝへて名持といひ既いやしめては名なし雉子と云をも思へ 作服異六。白細乃。冠辭此間に衣の辭を畧き云 紐緒毛不解。此緒も前の哥に云如く假字訓也 一重結。帶矣三重結。奉公の勞に身もつかれ痩たるさまをいふ也 苦侍伎爾。仕奉而。今谷裳。國退而。父妣毛。妻矣毛將見跡。思乍。往邪牟君者。鳥鳴。冠辭 東國能。恐耶。神之三坂爾。和細布乃。今本細布を靈とするは細布の草を靈と見し誤としてにぎたへと眞淵はよめりいかさまにも和靈にてはこゝに不叶上で字を改

哥林良材云昔津の國屋蘆の里に有し女士壯のこと處女ふこれなるへし二人のあるいそのひとの男ちけの名なりぬ一人なるさの男と云ひ人なりけ男のさしたしの心ひ男と云ひ何もはしけ女思てれ觀にはひ暇乞せぬてかひ煩自宵のてし終自殺人はもし其時二男れ同其の所の人是なのの墓男なつの中にる築なあ

服寒等爾。鳥玉乃。冠辭 髮者亂而。邦問跡。今本郡とあるは邦の誤しるけれはあらたむ 國矣毛不告。家問跡。家矣毛不告。益荒夫乃。去能進爾。今本進をすゝみと訓るは後也古によて訓を改む 此間偃有。

過葦屋處女墓時作哥一首并短哥

古之。益荒丁子。丁に出る男なれはこゝに丁子とは書り 各競。妻問爲祁牟。葦屋乃。菟名日處女乃。下の哥に宇奈比壯士と有津の國の地名なるへし 奥城矣。吾立見者。永世乃。語爾爲乍。後人。偲爾世武等。玉桙乃。冠辭 道邊近。磐構。作冢矣。冢は令によるに三位以下は地と均しとあり磐構なと云は哥故にかくいへるか 又格別の事故にかくせる歟 天雲乃。退部乃限。此道矣。去人毎。行因。射立嘆日。感人

うなひ處女のさきつ又花に山のとい大和物語に此院の事見えたり大和物語云奥人家の女に接せしかとの名はいひけめ云つるとも云々此集なとめつるに有へしとい

者。上の句の射は發語也此句の脈今本に感とあるはまたく誤故改 啼爾毛哭乍。語嗣。偲繼來。處女等賀。奥城所。吾幷。見者悲裳。古思者。

反哥

古乃。小竹田丁子乃。小竹田は同國又隣國の地なるへし 妻問石。菟會處女乃。奥城叙此。語繼。可良仁文幾許。からにも巻三の別記にくはしくある如く故に同しく又そのまゝてふ意ともなるこゝは句を切て意をつゞけり 戀布矣。直目爾見兼。古丁子。末の句今本むかしのをのことよめる訓のいまたしきをあはせ思へ

哀弟死去作哥一首幷短哥

父母賀。成乃任爾。成は借字生なり 箸向。冠辭 弟乃命者。朝露乃。銷易杵壽。神之共。此神は黄泉の神也さて朝露の消安きと此神ゝ共といひてそれにあらそひかねてなり 荒競不勝而。葦原乃。水穗之國爾。家無哉。又還不來。遠津國。黄泉乃界丹。蔓都多乃。如を入て心得へし 各各向向。天雲乃。こも如くを入て心得へし 別石往者。闇夜成。思迷匍匐。所射十六乃。冠辭 意矣痛。いらるゝ鹿のいたみの如く心をいたみといふを言を隔てしらせたるなり 葦垣之。冠辭 思亂而。春鳥能。又如くを入て心得へし 啼耳鳴乍。味澤相。冠辭 宵晝不云。蜻蜓之。心所燎管。こもいるしゝてふつゞけに同しかぎろひのことく心のもえつゝなけくとなり 悲悽別焉

反哥

別而裳。復毛可遭。所念者。心亂。吾戀目八方。一本云意靈而とあり

青衿　今本かく訓

蘆檜木笑。冠辭　荒山中爾　送置而。還良布見者。情苦裳。野送してかへりなん情誰か此情なくてあるへきまことのまことなる意也

右七首田邊福麻呂之哥集出

詠勝鹿眞間娘子哥一首幷短哥　是より下五首高橋蟲万呂の哥集中也

鶏鳴。冠辭　吾妻乃國爾。古昔爾。有家留事登。至今。不絶言來。勝牡鹿乃。眞間乃手兒奈我。眞間は下總國也手兒ははての子の意名はほめいふ言也　麻衣爾。青衿著。衿は知名抄に小帶也釋名に衿者禁也禁不得開散也とあれは於備と訓へし今本の訓はあやまり也　直佐麻乎。ひたは直也直麻を也佐を助字といふ說は誤也あさのあをはふけるのみ　裳者織服而。髮谷母。搔者不梳。履乎谷。不著雖行。今本著を看に誤よりてあらたむ　錦綾之。中丹裳有。齋兒毛。妹爾將及哉。望月之。滿有面輪二。今本みてるとあれと例によりて改既神の御名にも面足と申をもおもふへし　如花。咲而立有者。夏蟲乃。入火之如。水門入爾。船己具如久。歸香具禮。かゞひの所に云如く香具禮の具禮約計にてよりかけ也かたみに心意をよせかくる也委くは別記にいふ　人乃言時。句也是迄男の方を云　幾時毛。不生物乎。何爲跡歟。身乎田名知而。既いふ如く身をたねらひしり也　浪音乃。驟湊之。奥津城爾。妹之臥勢流　句也さわく湊の墓にこやすといふは則溺死をいふ也是まて手兒名のこゝろを云なり　遠代爾。有家類事乎。昨日霜。將見我其登毛。所念可聞。末の句共はよみ人の意也

反哥

勝牡鹿之。眞間之井見者。立平之。水挹家牟。手兒名之所念。

見菟名負處女墓　菟名負今本に菟原和名抄に菟原字波良と訓めに菟名負處女と既書たりこをもておもふに原は名負の二字の草を一字と見たる全き誤なれは字をあらたむ　さて此端詞には假字なけれと哥のはしより作は例によりて補　一首并短哥

葦屋之。菟名負處女之。八年兒之。巻十三に歳乃八歳乎切髪乃とあるをあはせて見よ　片生乃時從。こは誠に生たらはぬをもて片生といへり　小放爾。小放は髪のやゝのひて十五六歳をいふ　髪多久麻庭爾。既女となりたるをいふ委は別記にいふ　並居。父母なとゝ並居し也　家爾毛不所見。虛木綿乃冠辭　牢而座在者。此者は爾に通ふほとの言也　見而師香跡。見たりしかを約通していふ　悒憤時之。をとめかいぶせがる也　垣廬成。人之誂時。八言垣穂の如く其家の廻りに人多くつとひて心をかけ合時といふなり誂は既に云り　知奴壯士。和泉の地名也　乎奈比壯士乃處女と同地なり　廬八燎。冠辭　須酒師競。相結婚。爲家類時者。燒太刀乃。冠辭　手頭押禰利。今本預一本頭とある頭の誤しるし劒は頭といへは手はそへいふ辭にて頭を押ひねりてふ畧言也　白檀弓。靫取負而。入水。火爾毛將入跡。立向。競時爾。吾妹子之。菟名負處女をいふ也　母爾語久。倭文手纏。冠辭今本文を父に誤れり　賤吾之故。丈夫之。荒爭見者。雖生。應合有哉。此やは也波のやにてかへるてにをは也あふべからぬをいふなり　穴串呂。冠辭　黃泉爾將待跡。隱沼乃。冠辭　下延置而。下ばえおくは知奴壯士にしたがはんてふ心をうち〳〵に通し置て也　打嘆。妹之去者。血沼壯士。其夜夢見。取次寸。追去祁禮婆。後有。菟名負壯士。今本菟原と有て假字はらなびとせりこゝをもて端詞の字を誤る事いよゝしるきを見よ仍て改む　伊仰天。伊は發言のみ　叫於良妣。さけびあらび也於と安通　蹋地。今本蹈地を跟地に誤るしるかれは改む　牙喫建怒而。如己男爾。もころは友比也登毛は同行故登を畧て毛莽呂といふ比とは同俗の意也年比なと云比に同しやかて友又同きと云に意通ふ如己の字をあてつるにてもこゝろはしらるゝなり　負而者不有跡。懸佩之。帶取足緒なといふ物をもて取著る故かく云也　小釵取佩。冬暮蕷都

蹈地　蹈四蹼不見拾要抄蹈當作蹈

良。冠辭今本字を誤る事も訓を誤れる事も又冠辭考にもれし事もやどとなき御說をもて委く別記にいふ言多わつらはしけれはこゝに畧

尋去祁禮婆。親族共。射歸集。永代爾。標將爲跡。今本標を漂とせるは誤也一本によりて改

遐代爾。語將繼常。處女墓。中爾造置。八言

壯士墓。此方彼方二造置。是よりよみ人の意也

故緣聞而。雖不知。新裳之如毛。哭泣鶴鴨。

反哥

葦屋之。宇奈比處女之。奥槨乎。往來跡見者。ゆきくるとての留と呂を畧いふ也見てばのては見てあればを再約いふ意なる事上にいふ

哭耳之所泣。

墓上之。木枝靡有。如聞。陳奴壯士爾之。依倍家良信母。こは前の長哥の中の下ばえおきにあたる。なり

右五首高橋連蟲麻呂之哥集中出

万葉集卷十一之考終

昭和二年六月二十日印刷
同　年七月一日發行
（賀茂眞淵全集第二卷奥付）

國學院大學藏版

再校訂者　賀茂百樹
發行兼印刷者　東京市京橋區鈴木町十二番地　吉川弘文館　代表者　吉川半七
印刷所　東京市神田區千代田町二十八番地　川瀨松太郎

發賣所
東京市日本橋區數寄屋町　六合館
大阪市東區北久太郎町四丁目　合資會社　柳原書店
名古屋市西區下長者町四丁目　合資會社　川瀨書店
東京市京橋區鈴木町十二番地　日用書房
東京市牛込區早稻田鶴巻町二五二　國際美術社

46
紙

44
3111

終